大月町埋蔵文化財調査報告書第６集

高知県幡多郡大月町

ムクリ山遺跡Ⅱ

大月ウィンドファーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.3

高知県幡多郡大月町教育委員会
株式会社 大月ウィンドパワー

高知県幡多郡大月町

ムクリ山遺跡Ⅱ

大月ウィンドファーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.3

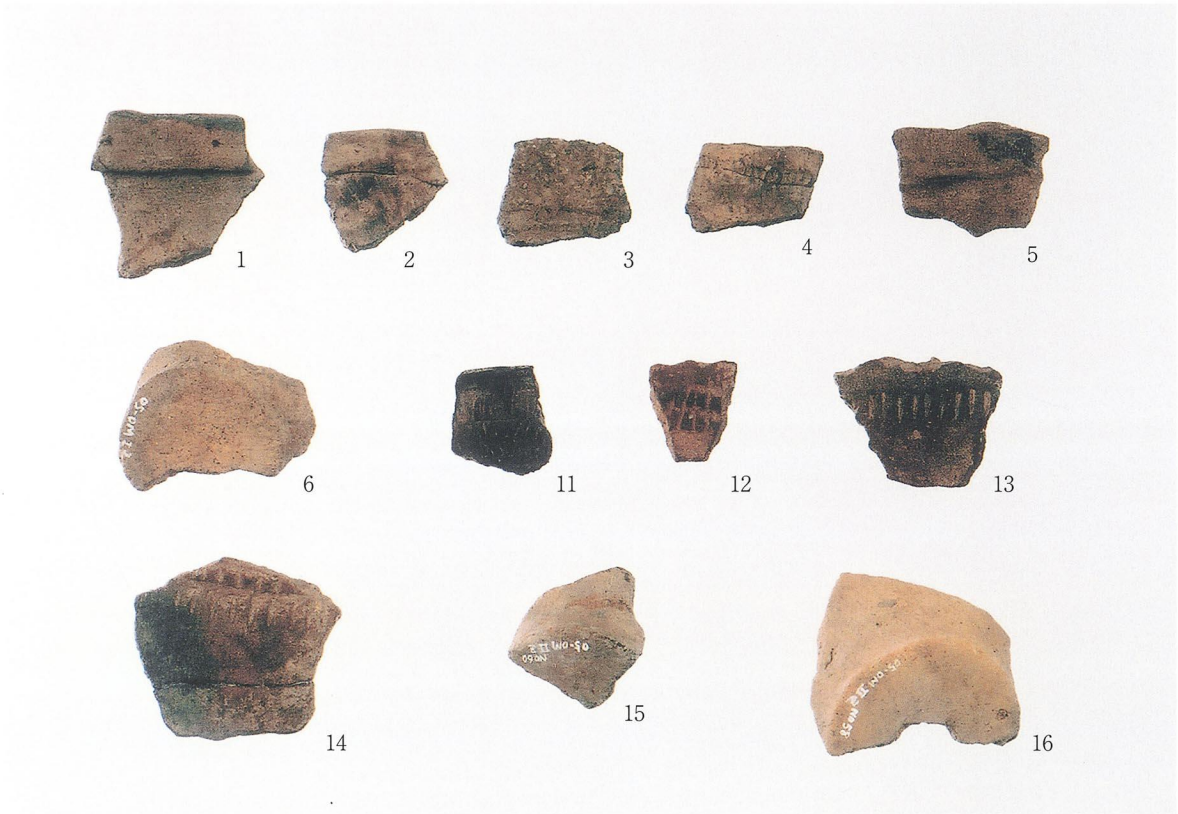
高知県幡多郡大月町教育委員会
株式会社 大月ウィンドパワー

完掘状態（南西から）

風力発電所完成

巻頭カラー２

Ⅲ区より出土（19）



Ⅰ区（１～６）　Ⅲ区（11～16）

序

本町は1957（昭和32）年２月11日「大内町」「月灘村」が合併し、本年で50周年の節目の年を迎えました。

教育委員会では、1973（昭和48）年初めて、ムクリ山遺跡の調査を行って以来、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図りながら、発掘調査を実施しております。当初は研究目的の学術調査が主流でしたが、近年では開発事業に伴う試掘確認調査が主体となっております。

今回の調査は、2006（平成18）年９月に完成した大月ウィンドファーム（風力発電所）建設に伴うものです。2001（平成13）年に計画され、2003（平成15）年までの間に約２kmの尾根の試掘確認調査を実施し、その結果を踏まえ2005（平成17）年の夏、本発掘調査を実施しました。標高約270mの尾根に所在する遺跡ですが、調査では主に弥生時代の土器片約1,500点を出土しました。

本町は高知県の西南端に位置しており、豊後水道を隔て九州と西南四国を結ぶ拠点とし重要な役割を果たした地域であるものと想像されます。今回の調査の成果が周辺地域の比較研究を可能とするものとして、今後の研究の進展に寄与されることが期待されます。

最後になりますが、調査の実施、報告書の作成にあたりまして、関係各位から多大なご協力とご指導を頂きましたことに対し厚くお礼申し上げますとともに、本書が広く活用されますことを願う次第であります。

2007年３月

大月町教育委員会
教育長　長山 健二

例　言

1．本報告書は、大月ウィンドファーム建設工事に伴うムクリ山遺跡の発掘調査報告書である。

2．ムクリ山遺跡は高知県幡多郡大月町龍ヶ迫に所在する。

3．調査は、株式会社大月ウィンドパワーの依頼を受けて、大月町教育委員会が行った。調査期間は、2005（平成17）年７月19日～９月21日で、調査面積は4,515㎡である。

4．調査方法は、雑木の抜根、表土の除去をバックホーにより行い、Ⅱ層以下は人力による手掘りを基本とし地山まで掘り下げた。必要に応じて写真撮影、出土状況の平面図作成、レベル測量を行った。

5．本書の編集は大月町教育委員会が行い、実務及び執筆は坂本が行った。現場写真は必要に応じて調査員が撮影し、遺物写真は㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター 次長 森田尚宏氏にお願いした。

6．整理作業（遺物接合・拓本・実測・トレース）は、山中美代子、東村知子の協力を得た。

7．遺物については 1/2・1/3 の縮尺で実測図を掲載した。なお、本書に記載している出土品及び図面・写真等は大月町教育委員会において保管している。

8．現地調査及び本報告書を作成するにあたり、下記の諸機関・諸氏にご指導、ご協力を賜った。感謝したい。

高知県教育委員会 文化財課　㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　四万十市教育委員会
㈶愛媛県埋蔵文化財センター　宇和島市教育委員会　下條信行先生（愛媛大学 法文学部）
犬飼徹夫先生（日本考古学協会員）

9．発掘調査にあたっては、事業主である㈱大月ウィンドパワーに多大なご協力とご支援を頂いた。また、地権者をはじめ地元住民の方々にもご理解とご協力をいただいた。厚く感謝の意を表したい。

目　次

巻頭カラー
序
例言

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の立地及び環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　調査の成果
　第１節　調査区の設定 …… 5
　第２節　土層堆積状況 …… 6
　第３節　出土遺物 …… 10
第Ⅳ章　総括 …… 20

挿図目次

第１図　大月町位置図 …… 1
第２図　調査区位置図 …… 2
第３図　龍ヶ迫層位置図 …… 3
第４図　四国における四万十帯の分布と地質断面図 …… 3
第５図　ムクリ山遺跡周辺の埋蔵文化財包蔵地位置図 …… 4
第６図　調査区設定図 …… 5
第７図　Ⅱ区北壁セクション図 …… 6
第８図　Ⅳ区北壁セクション図 …… 6
第９図　Ⅲ区南壁セクション図 …… 7
第10図　Ⅲ区出土遺物分布図 …… 8
第11図　完掘後地形図 …… 9
第12図　Ⅰ区出土遺物（１～10）　Ⅱ区出土遺物（11～18） …… 12
第13図　Ⅲ区出土遺物（19～52） …… 13
第14図　Ⅲ区出土遺物（53～58） …… 14

第15図　Ⅲ区出土遺物（59～62）　Ⅳ区出土遺物（63～67）…… 15
第16図　Ⅳ区出土遺物（68・69）　表面採集遺物（70～81）…… 16
第17図　表面採集遺物（82・83）…… 17

表 目 次

出土土器観察表１（Ⅰ区～Ⅲ区）…… 17
出土土器観察表２（Ⅲ区・Ⅳ区）…… 18
出土土器観察表３（表面採集）…… 19
出土石器観察表４（Ⅰ区～Ⅳ区・表面採集）…… 19

写真図版目次

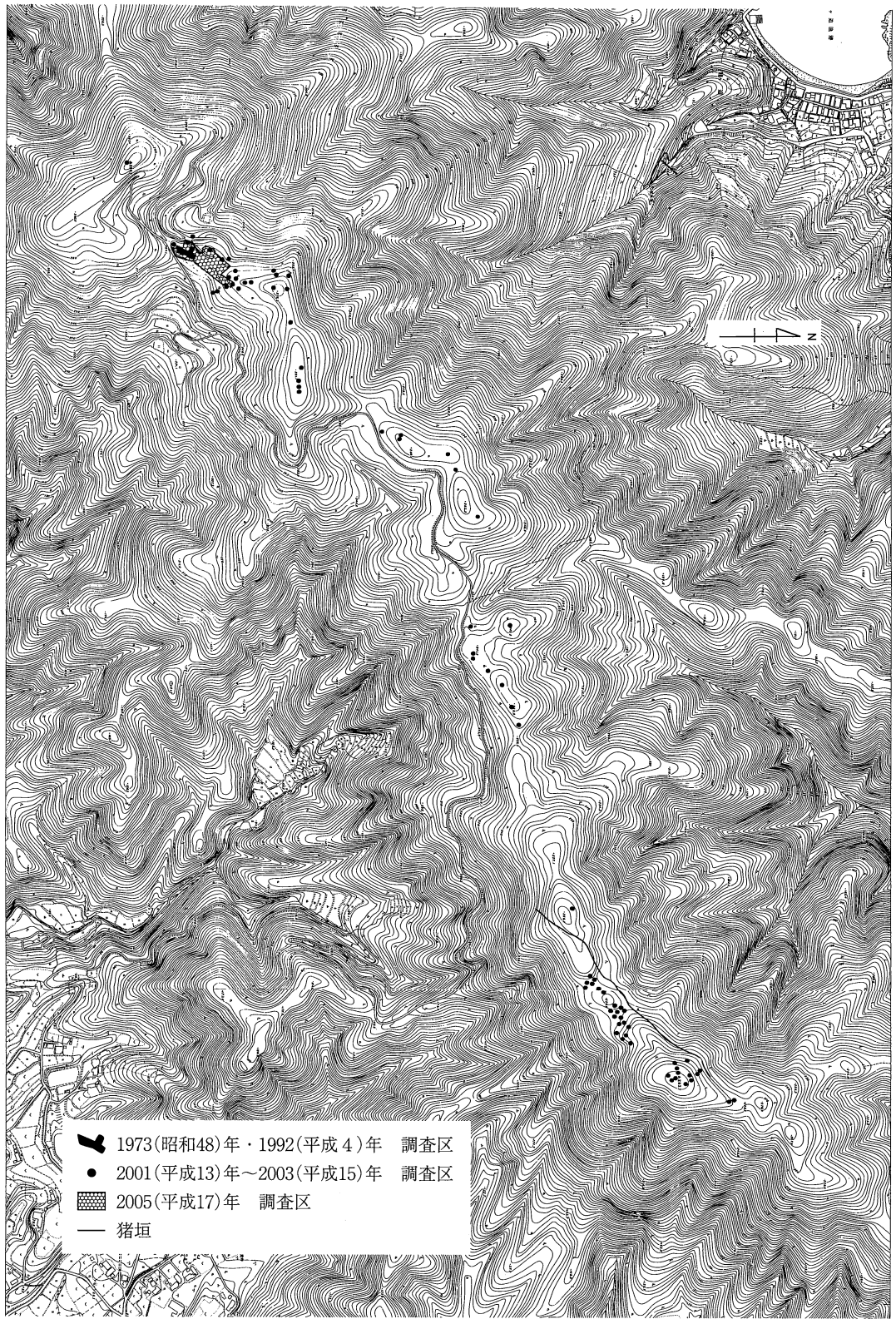
巻頭カラー１	完掘状態（南西から）	風力発電所完成
巻頭カラー２	出土遺物 Ⅲ区より出土（19）	出土遺物　Ⅰ区（１～６）　Ⅱ区（11～16）
図版１	空撮（ムクリ山遺跡包蔵地）	南西より
図版２	作業風景１	作業風景２
図版３	Ⅰ区トレンチ	Ⅰ区北壁セクション
図版４	遺物出土状況	Ⅰ区（Ⅱ層上部）
図版５	出土遺物　Ⅲ区（19）	出土遺物　Ⅲ区（45）
図版６	出土遺物　Ⅰ区（１～６）	出土遺物　Ⅲ区（20～31）
	Ⅱ区（11～16）	
図版７	出土遺物　Ⅲ区（32～52）	出土遺物　Ⅳ区（63～65）
		表面採集遺物（70～80）
図版８	出土遺物　Ⅰ区（７～10）	出土遺物　Ⅲ区（57～62）
	Ⅱ区（17・18）	
	Ⅲ区（53～56）	
図版９	出土遺物　Ⅳ区（66～68）	出土遺物　Ⅳ区（69）
		表面採集遺物（81～83）
図版10	出土遺物　表面採集遺物１	出土遺物　表面採集遺物２
図版11	出土遺物　表面採集遺物３	出土遺物　表面採集遺物４
図版12	出土遺物　表面採集遺物５	出土遺物　表面採集遺物６
図版13	出土遺物　表面採集遺物７	

第Ⅰ章　調査に至る経緯

今回の調査は、㈱大月ウィンドパワーによる大月ウィンドファーム（風力発電所）建設に伴うものである。風力発電所建設工事は2001（平成13）年５月に計画された。計画地内にムクリ山遺跡が含まれることから、その保存について協議が行われ、まず計画地を対象として試掘確認調査を行うこととした。試掘確認調査は2001（平成13）年９月～2003（平成15）年10月まで、ムクリ山遺跡とその隣接地の尾根約２kmについて実施した。その結果、ムクリ山遺跡及び周辺部で、弥生時代、縄文時代の所産と思われる遺物が出土したため、今回の調査に至ったものである。

ムクリ山遺跡の第１次調査は、1973（昭和48）年に遡る。「弥生系高地性集落址の研究」の「南四国の弥生系高地性集落址の調査研究」に伴う学術調査の一部として岡本健児氏・廣田典夫氏等により実施された。大月町では初めての発掘調査であり注目を集めた。第２次調査は大月町教育委員会が主体となり、㈶高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力を得て、1992（平成４）年８月３～14日まで学術調査を実施し、資料を得ている。2001（平成13）年５月以降の試掘確認調査を第３次調査とすると、今回の調査で第４次を数えることとなる。

第１図　大月町位置図


N
1973(昭和48)年・1992(平成４)年　調査区
2001(平成13)年～2003(平成15)年　調査区
2005(平成17)年　調査区
猪垣
0
500m

第２図　調査区位置図

第Ⅱ章　遺跡の立地及び環境

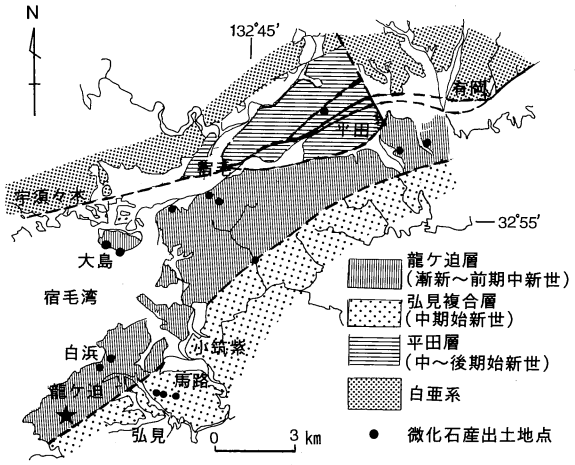
第１節　地理的環境

大月町は高知県の西南端に位置する。北緯32°53分～32°45分、東経132°37分～132°47分、南北15km、東西15.8kmで面積は103.04k㎡である。河川・平野は少なく総面積の７割を山林が占める。ムクリ山遺跡は、北緯32°51分13秒、東経132°40分22秒、標高約270mに所在する。遺跡からは北に宿毛湾と南宇和のリアス式海岸が一望でき、西には豊後水道が開け、晴れた日には九州を遠望することができる。南には平地が広がり漁業と農業を中心とした町である。

大月町の地質は、仏像構造線の南、四万十帯の南帯に含まれ、北から龍ヶ迫層、弘見複合層、来栖野層、中新統花崗岩で形成されており、ムクリ山遺跡周辺は龍ヶ迫層に属する。

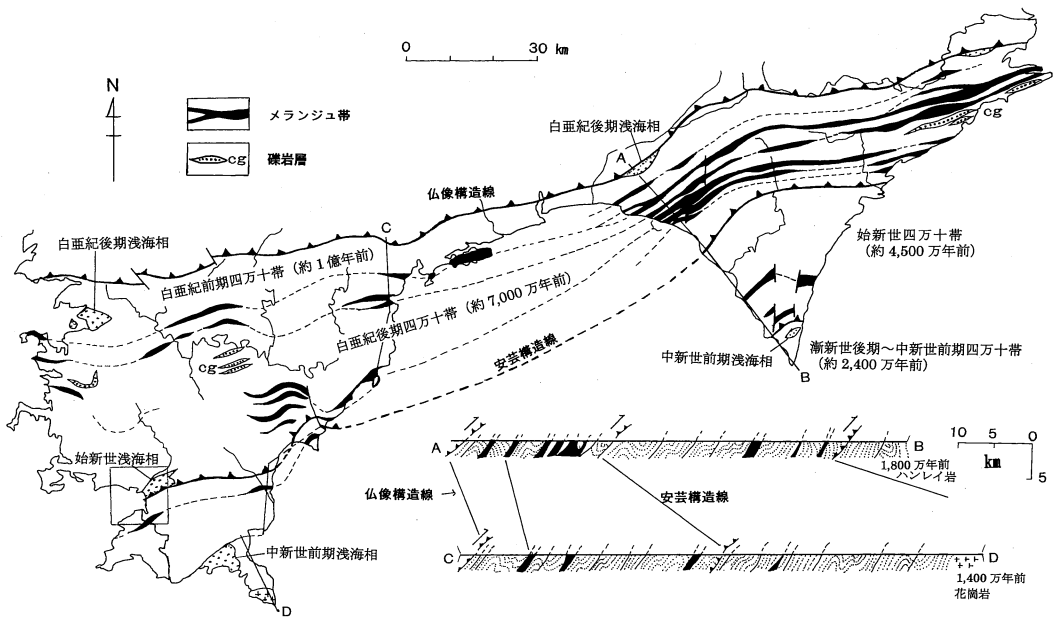
龍ヶ迫層は中粒から粗粒の砂岩と暗灰色泥岩のタービダイト性の互層、しばしばスランプ褶曲をする砂岩と泥岩の互層、泥質岩をマトリックスとし砂岩・泥岩の岩魂をふくむ地層が交互にくりかえす。北側の平田層とは断層関係にある。

大月町白浜に分布する泥岩から、漸新～前期中新世の放散虫が発見されていることから、この地質年代は漸新～前期中新世と考えられる。



第３図　龍ヶ迫層位置図

※「四国地方・日本の地質８－高知県宿毛市周辺の地質（山崎・須鎗　1990）」（共立出版株式会社）より一部改変



第４図　四国における四万十帯の分布と地質断面図

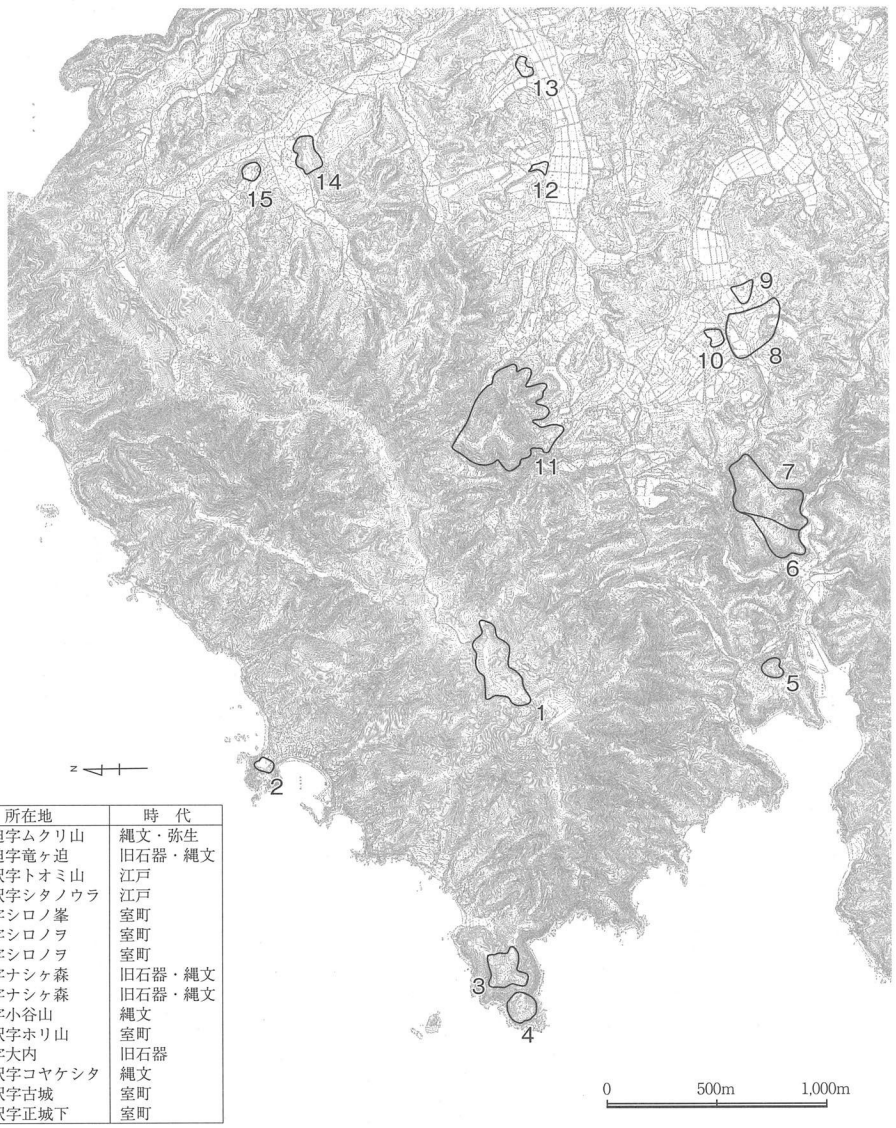
※「日本列島の誕生」（岩波新書）より一部改変

第２節　歴史的環境

ムクリ山遺跡の眼下には龍ヶ迫の集落が広がる。龍ヶ迫の集落は1876（明治９）年、豊かな漁場を求め、伊予国東外海村大浜より開拓移住してきた人たちによって形成されている。ムクリ山遺跡及び龍ヶ迫遺跡の発見は、この龍ヶ迫地区の人たちによるものである。

ムクリ山遺跡より北の眼下に所在する龍ヶ迫遺跡は昭和63（1988）年遺跡台帳に登録された周知の遺跡で、大月町で初めて旧石器時代の遺物が確認された。

南側の平野部にはナシヶ森遺跡が所在する。ナシヶ森遺跡は、平成６～８年に学術調査が実施され、多量の剥片と楔形石器等が出土、最下部には珪質頁岩の岩盤層を検出し、西日本初の珪質頁岩による石器原産地遺跡として平成８年10月３日記者発表が行われた。本町は県内でも旧石器時代の遺跡が多く確認されている。また、姫島産黒曜石が広く分布する。四国の西南部に位置する本町は、海を通じて中央部への接点として枢要な役割を果たした地であると考えられる。



No	名　称	所在地	時　代
1	ムクリ山遺跡	龍ヶ迫字ムクリ山	縄文・弥生
2	龍ヶ迫遺跡	龍ヶ迫字竜ヶ迫	旧石器・縄文
3	白崎の火立場跡	芳ノ沢字トオミ山	江戸
4	白崎砲台跡	芳ノ沢字シタノウラ	江戸
5	古泊城跡	泊浦字シロノ峯	室町
6	西泊浦城跡	泊浦字シロノヲ	室町
7	泊浦城跡	泊浦字シロノヲ	室町
8	ナシヶ森遺跡	弘見字ナシヶ森	旧石器・縄文
9	ナシヶ森Ⅱ遺跡	弘見字ナシヶ森	旧石器・縄文
10	小谷山遺跡	弘見字小谷山	縄文
11	内平城跡	芳ノ沢字ホリ山	室町
12	大内遺跡	弘見字大内	旧石器
13	コヤケシタ遺跡	芳ノ沢字コヤケシタ	縄文
14	芳ノ沢城跡	芳ノ沢字古城	室町
15	正城跡	芳ノ沢字正城下	室町

第５図　ムクリ山遺跡周辺の埋蔵文化財包蔵地位置図

第Ⅲ章　調査の成果

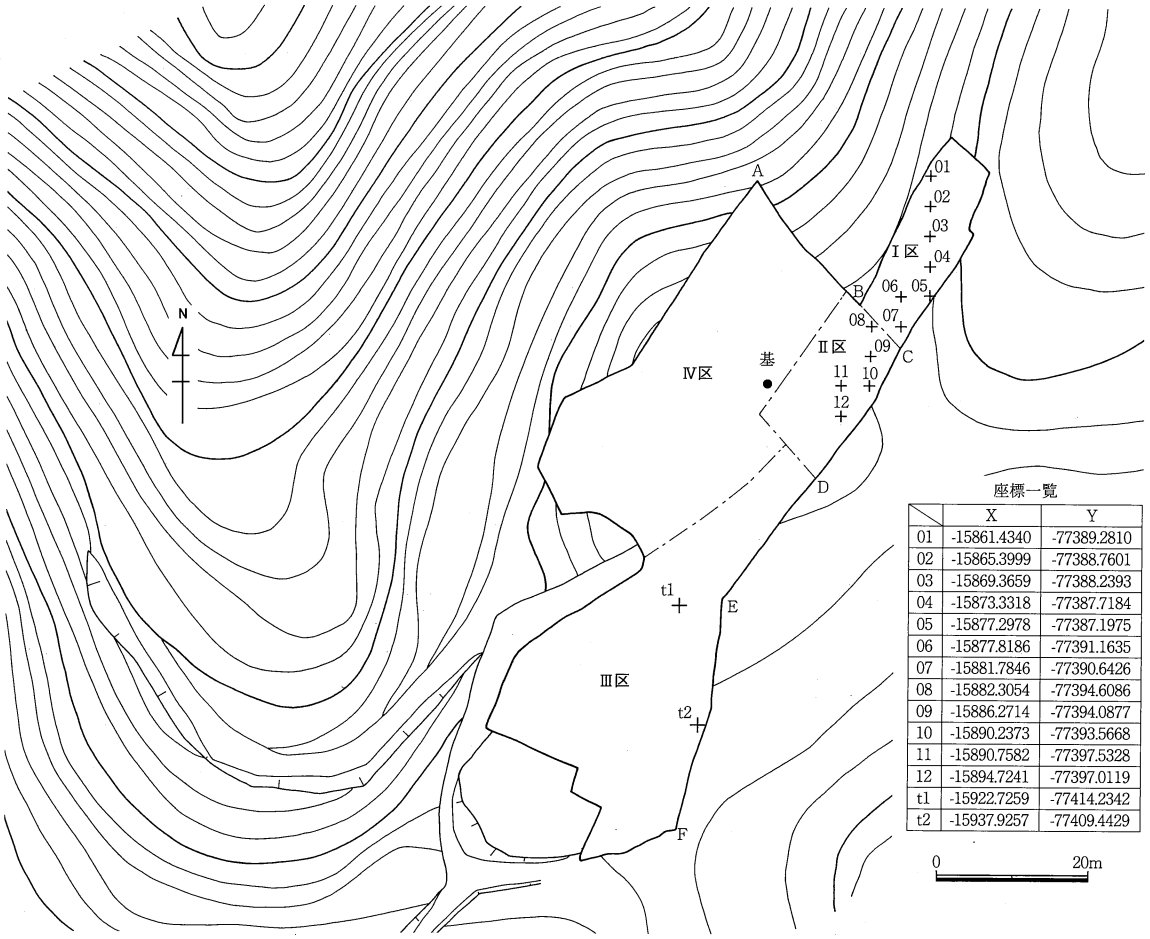
第１節　調査区の設定

調査の対象区域は、風力発電機の基礎25m×40m及び付帯する取付け道の、面積2,247㎡である。北側の取付け道部分をⅠ区、風力発電機の基礎部分の北斜面をⅡ区、南斜面から緩やかに下った平坦地をⅢ区、西の斜面をⅣ区と設定した。

取付け道部分のⅠ区とⅢ区で比較的密に遺物の分布を確認した。そのため、Ⅰ区は更に上部（北）へ、Ⅲ区は第１次、第２次調査時の遺構を再確認した周辺を精査するため、南～西を更に拡張し、実調査面積は4,515㎡となった。

調査は、雑木の抜根、表土の除去をバックホーにより行い、Ⅱ層以下は人力による手掘りを基本とし、遺構及び遺物の検出に努め地山まで掘り下げた。出土した遺物についてはドットでの平面分布図を作成し、出土レベルと出土層位の記録を行った。必要に応じ写真記録も行った。

また、測量については、公共座標の基準点を設置して、調査区を設定し遺物の取上げ等を行った。



	X	Y
01	-15861.4340	-77389.2810
02	-15865.3999	-77388.7601
03	-15869.3659	-77388.2393
04	-15873.3318	-77387.7184
05	-15877.2978	-77387.1975
06	-15877.8186	-77391.1635
07	-15881.7846	-77390.6426
08	-15882.3054	-77394.6086
09	-15886.2714	-77394.0877
10	-15890.2373	-77393.5668
11	-15890.7582	-77397.5328
12	-15894.7241	-77397.0119
t1	-15922.7259	-77414.2342
t2	-15937.9257	-77409.4429

第６図　調査区設定図

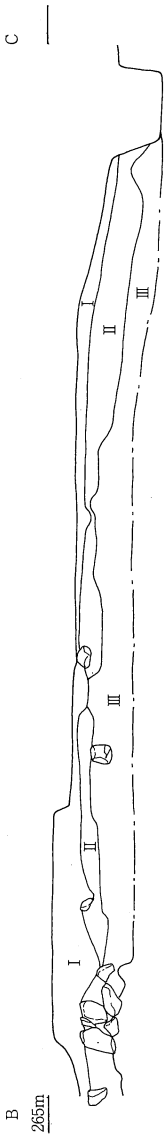
第２節　土層堆積状況

堆積土壌は浅く、基本層序は第Ⅰ層～第Ⅲ層に分けられる。

第Ⅰ層は表土層で黒褐色を呈する。旧耕作土及び植林地で層厚は10cm～25cmを測り調査区全体に分布する。第Ⅱ層は遺物包含層である。黄褐色を呈する粘性の弱いシルト層で、厚いところで50cmを測る。Ⅲ区の頂上付近とⅣ区の西斜面全体では大礫が多く堆積が認められない部分もある。Ⅲ層は明赤褐色土を呈するやや粘質のシルト層である。Ⅲ区西側では鬼界アカホヤ火山灰が混入する。

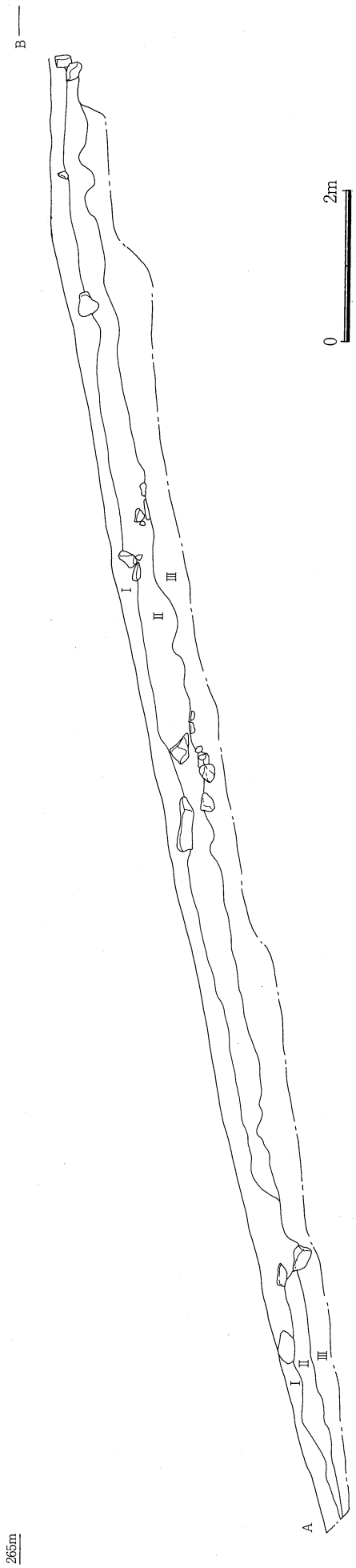
第Ⅲ層下は地山である。

各層序の所見は図示したとおりである。

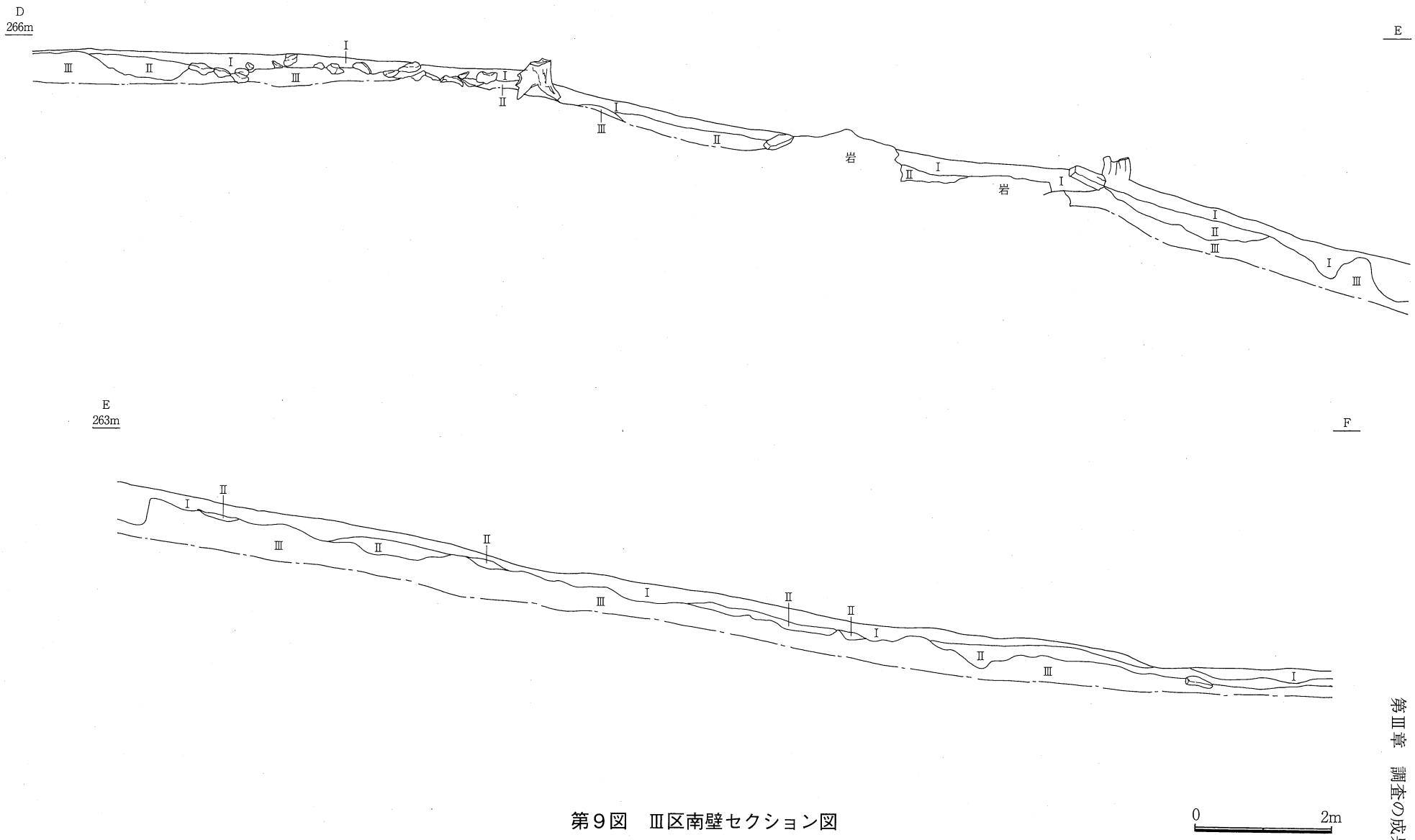


第７図　Ⅱ区北壁セクション図

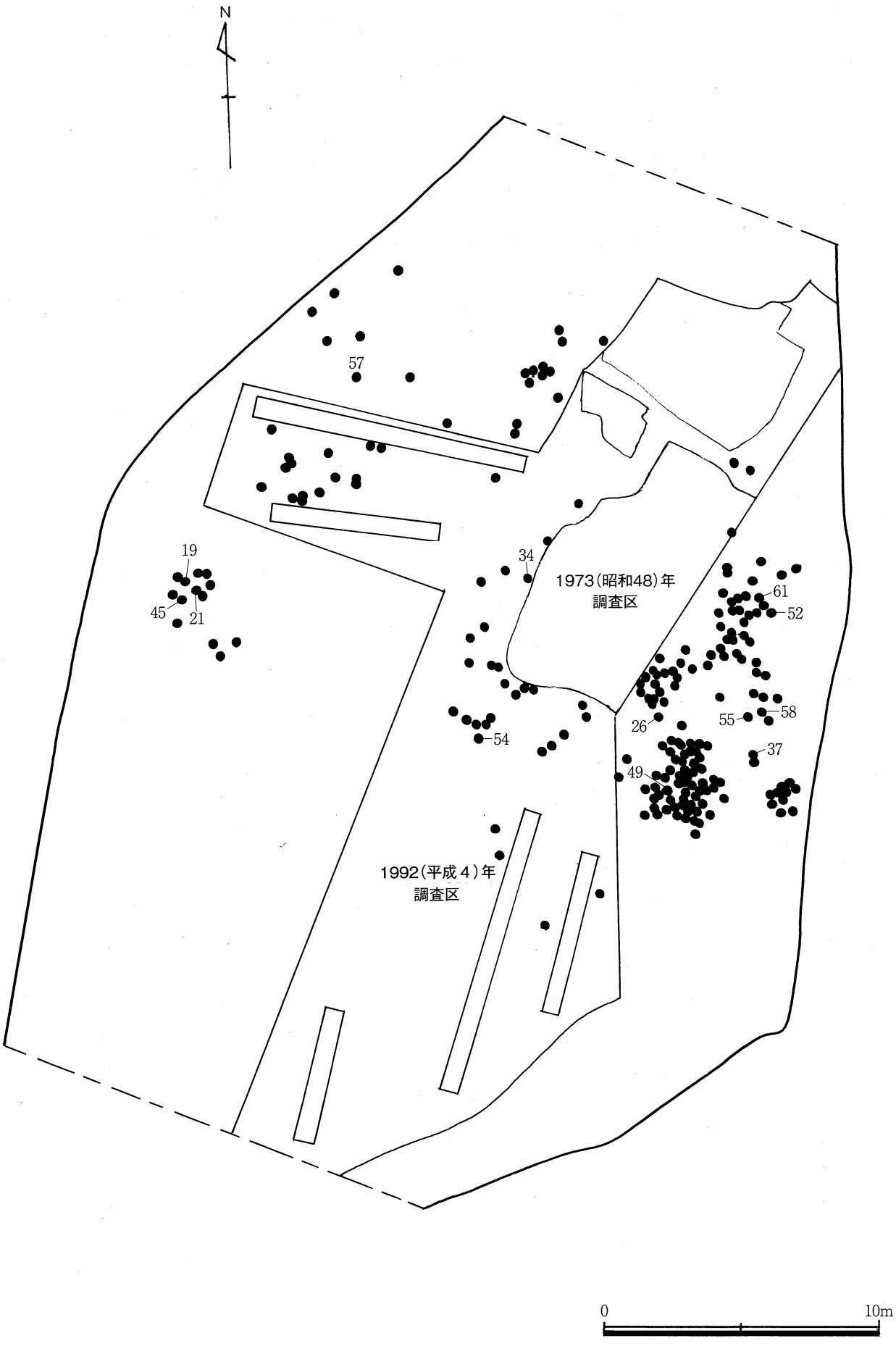
第Ⅰ層　表土　黒褐色土（7.5YR3/2）
　　旧耕作土及び植林地
第Ⅱ層　黄褐色シルト（10YR5/8）
　　遺物包含層。砂質で粘性は弱い、
第Ⅲ層　明赤褐色シルト（5YR5/8）
　　やや粘質
　　以下地山



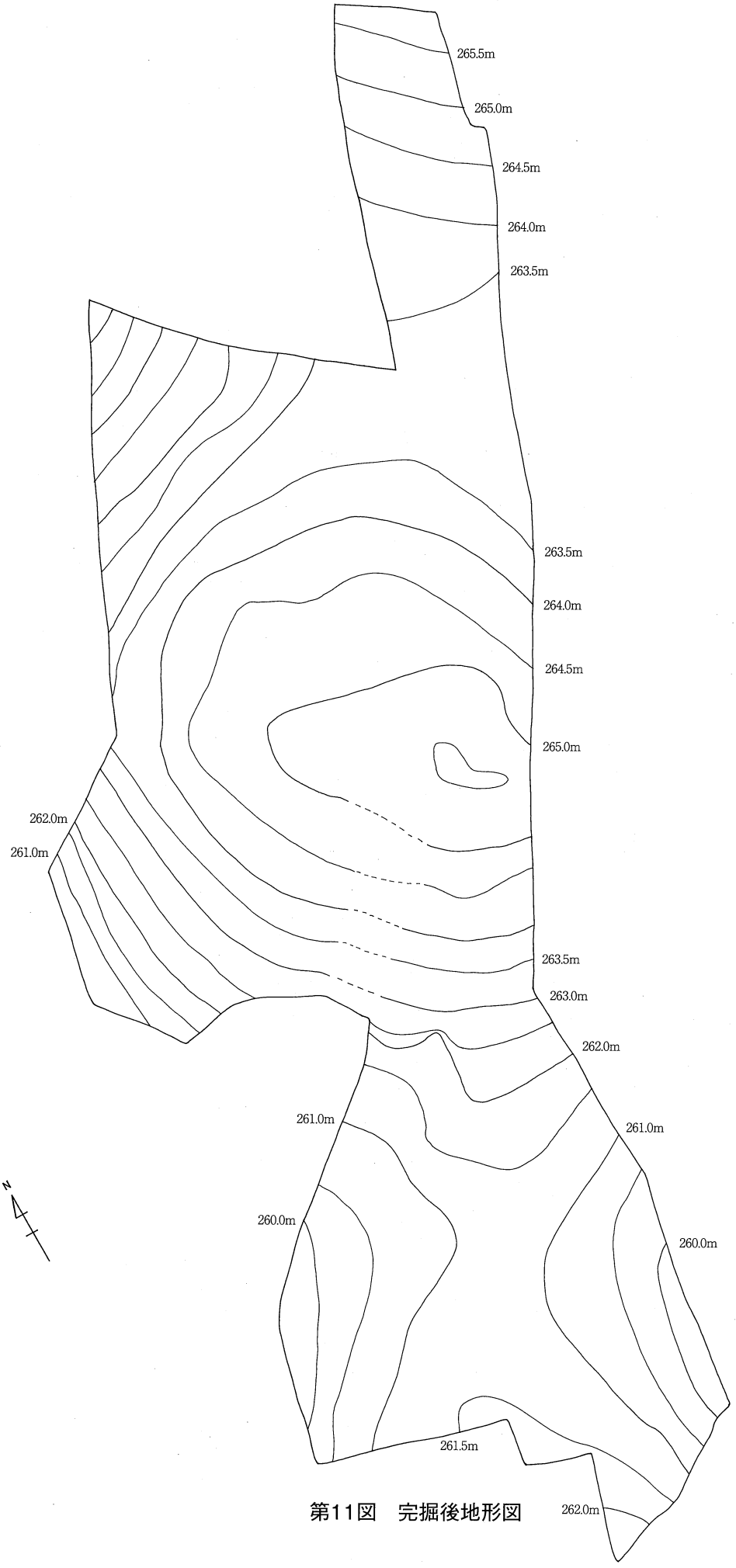
第８図　Ⅳ区北壁セクション図



第９図　Ⅲ区南壁セクション図



第10図　Ⅲ区出土遺物分布図


265.5m
265.0m
264.5m
264.0m
263.5m
263.5m
264.0m
264.5m
265.0m
262.0m
261.0m
263.5m
263.0m
262.0m
261.0m
261.0m
260.0m
260.0m
261.5m
262.0m
N
0
10m

第11図　完掘後地形図

第３節　出土遺物

平成17年度の調査で出土した遺物は約1,500点である。主にⅠ区とⅢ区で密に分布しており、調査区外では東及び南に遺物の分布は拡がると考えられる。遺物の出土層位は第Ⅱ層である。

以下Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区、表面採集の順に説明する。

（1）Ⅰ区

Ⅰ区は、南斜面の調査区である。当初設定した調査区の上端で、比較的遺物を密に検出した。そのため、さらに範囲を拡張し精査することとした。拡張した範囲には然程拡がりは無く、遺構の発見には至っていない。

１～４は弥生土器口縁部である。１～３は粘土帯を口縁部に貼付し肥厚させる。１は明瞭な段をなす。頚部からゆるく外傾すると推測される。３は貼付した粘土帯の下部に微隆起突帯を巡らし、粘土帯の下端部と微隆起突帯の境に環状浮文を施す。４は上部を破損しているが粘土帯を貼付した後、下端部にヘラ状工具による刻目が施文される。５は胴部である。断面三角形の微隆起突帯が巡る。６は壺もしくは甕の底部である。平底で体部にかけ緩く広がりながら立ち上がる。７、８は頁岩製の石鏃であるが刃先は欠損している。粗い調整で自然面が残る。基部の抉りはやや深い。９は石包丁である。両短辺に抉りを持つ。表面の刃部は左部に横方向の擦痕、磨耗が観察される。裏面刃部は、左部は弱く、右部は強い磨耗が観察される。10は砂岩製の叩石である。表裏面共に中央に敲打痕が認められる。

（2）Ⅱ区

Ⅱ区は、北斜面の調査区である。11は口縁部である。12～14は胴部である。12、14は刻目突帯、13は刻目を巡らす。15、16は底部である。16は低部に８㎜の一孔を持つ甑である。17、18は頁岩製の剥片である。17は縦長、18は横長の下端部に使用痕が認められる。

（3）Ⅲ区

Ⅲ区は南斜面及び平坦部の調査区である。遺物は平坦部で比較的密に分布する。今回の調査ではもっとも遺物の多い調査区である。19～23は、口縁部に粘土帯を張り付け胴部から口縁部にかけて緩やかなカーブを描いて外反しており、「南四国型」甕に属する。19は頚部と胴部の境に突帯を巡らす。23は刻目突帯を巡らす。20は焼成後に穿たれた穿孔を有する。19と45は直接接合しないが同一固体である。

24～31は口縁部である。口縁部の殆どが粘土帯を貼付するものである。

32～34は櫛描波状文を施す。35～40は刻目突帯文を巡らす。41は竹管文、42は刺突文、43は浮文を施す。45～52は底部である。51は低部外面中央部が若干窪むがその他は平滑に仕上げる。50は外面刷毛調整で仕上げる。

53は姫島産黒曜石の石鏃である。54は姫島産黒曜石の剥片である。55、56は使用痕のある頁岩製の剥片である。57は砂岩製のスクレーパーである。58は頁岩製の剥片である。59～61は砂岩製の敲石である。62は砂岩製の砥石である。

（4）Ⅳ区

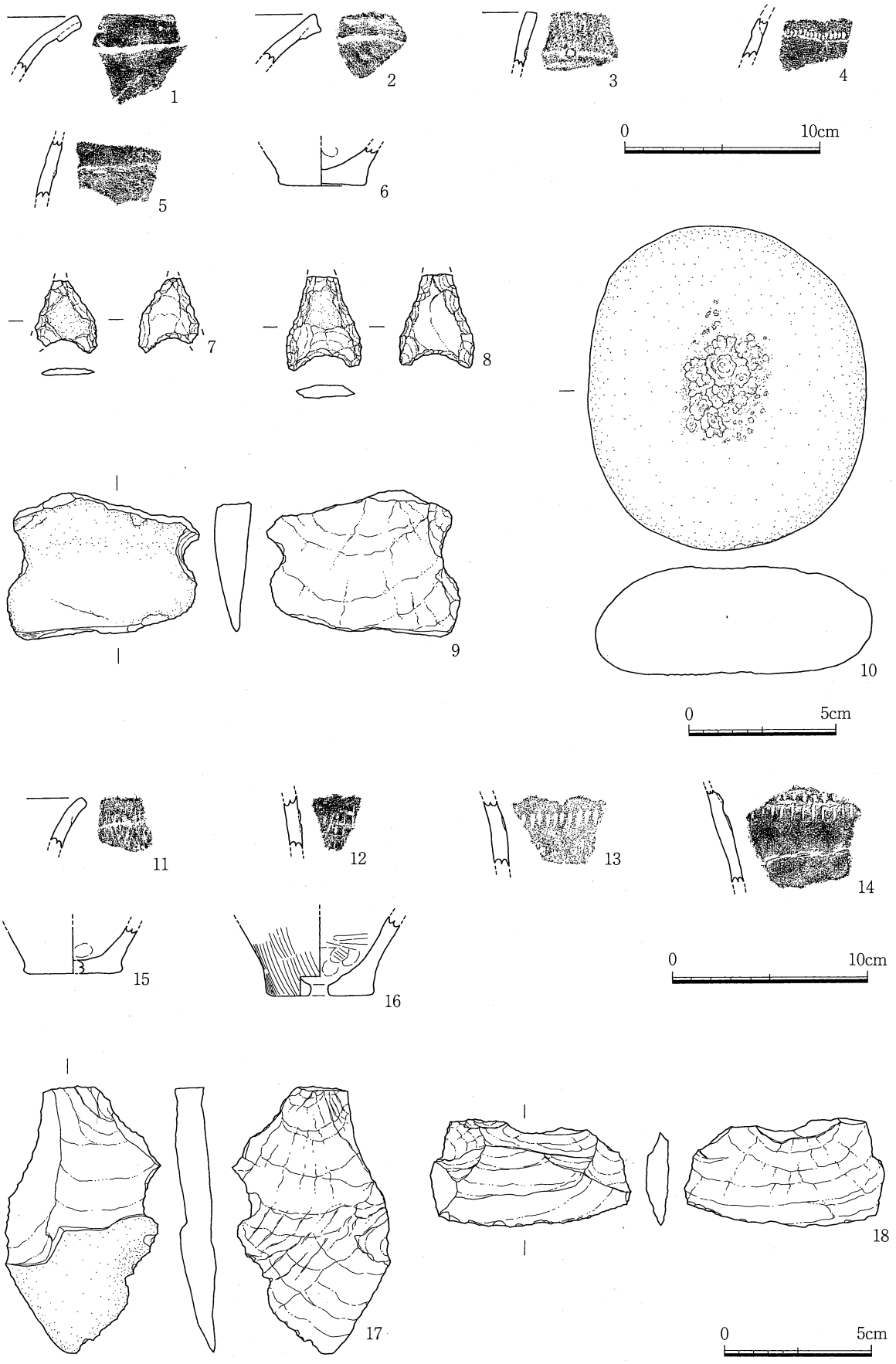
Ⅳ区は、西斜面及び南斜面の調査区である。堆積土は浅く、1～2m大の礫が多く、出土遺物は少ないが、南斜面側では、焼土と縄文土器片を検出した。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ区に比べ比較的石器類を多く出土した。

63はヘラ状工具による横線を巡らし、その下部に列点文を施す。64と65は縄文早期後半所産の繊維無紋土器であるが磨耗が激しい。66～69は砂岩製の叩石である。68は本来大型の円礫で、敲打痕から、折損した後に敲石として使用した可能性が高い。66は他の敲石が扁平なのに対し部厚い。

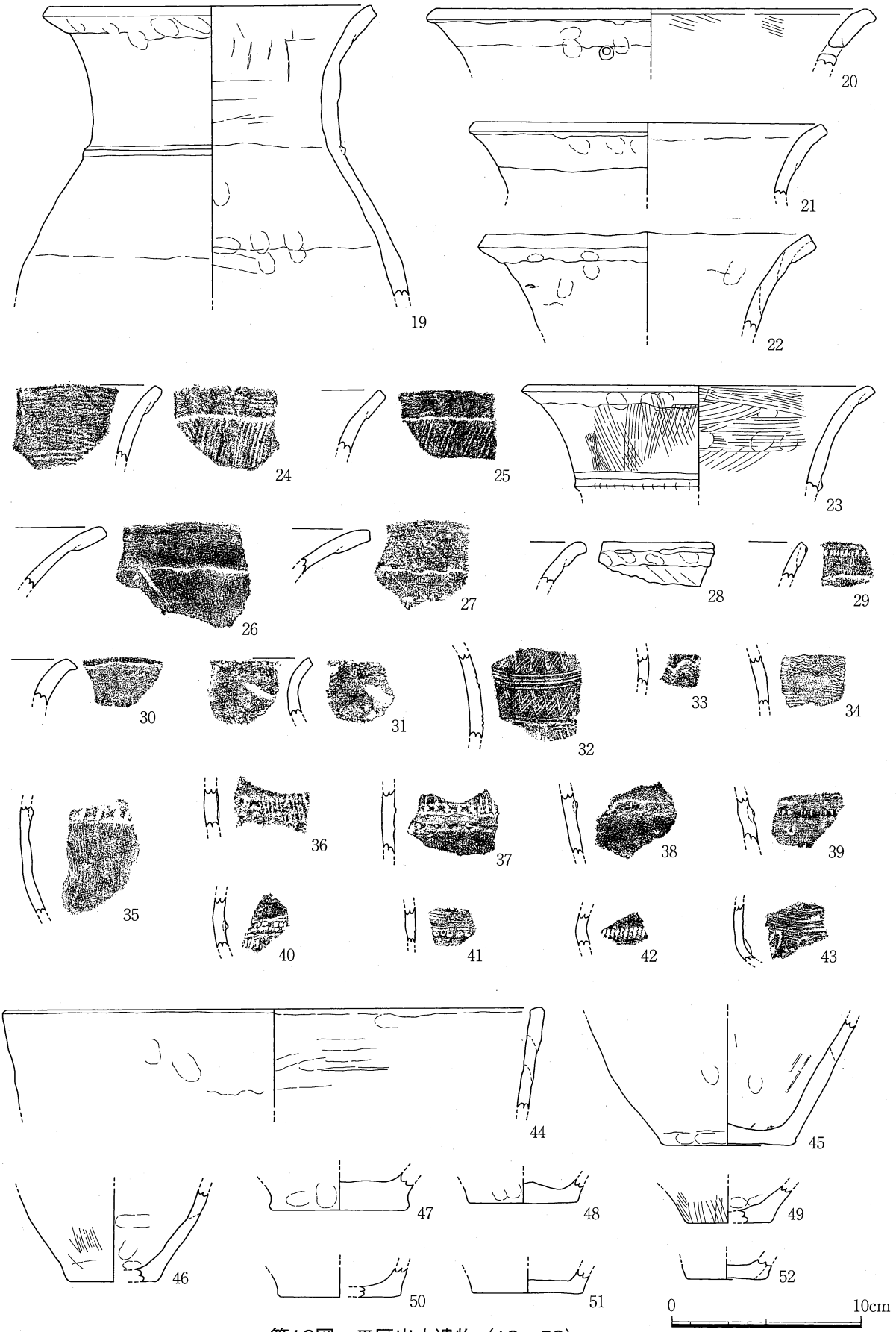
（5）表面採集資料

70～74は口縁部である。

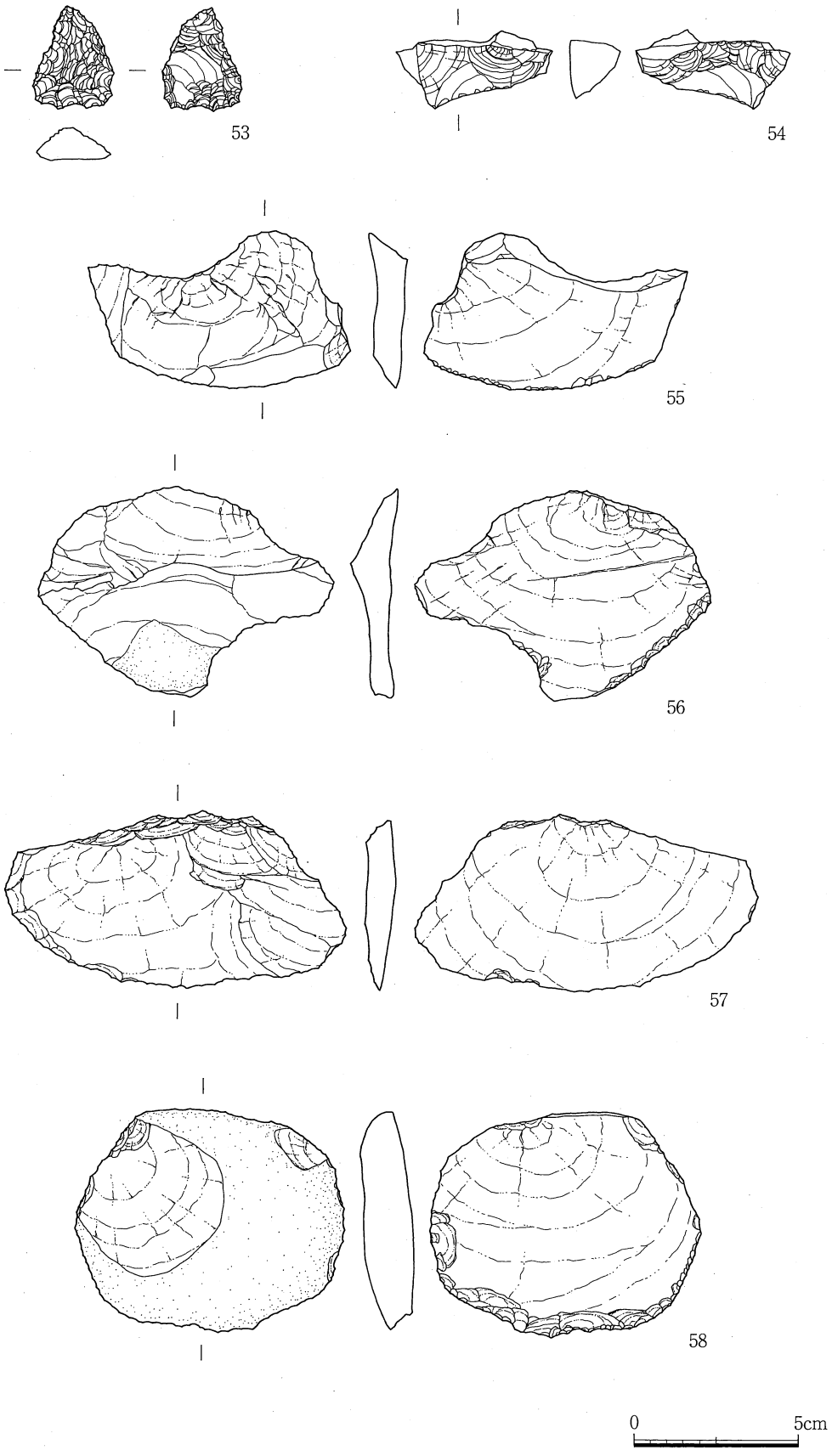
75は胴部76肩部77～80は底部である。81、82は頁岩製の剥片、83は砂岩製の敲石である。



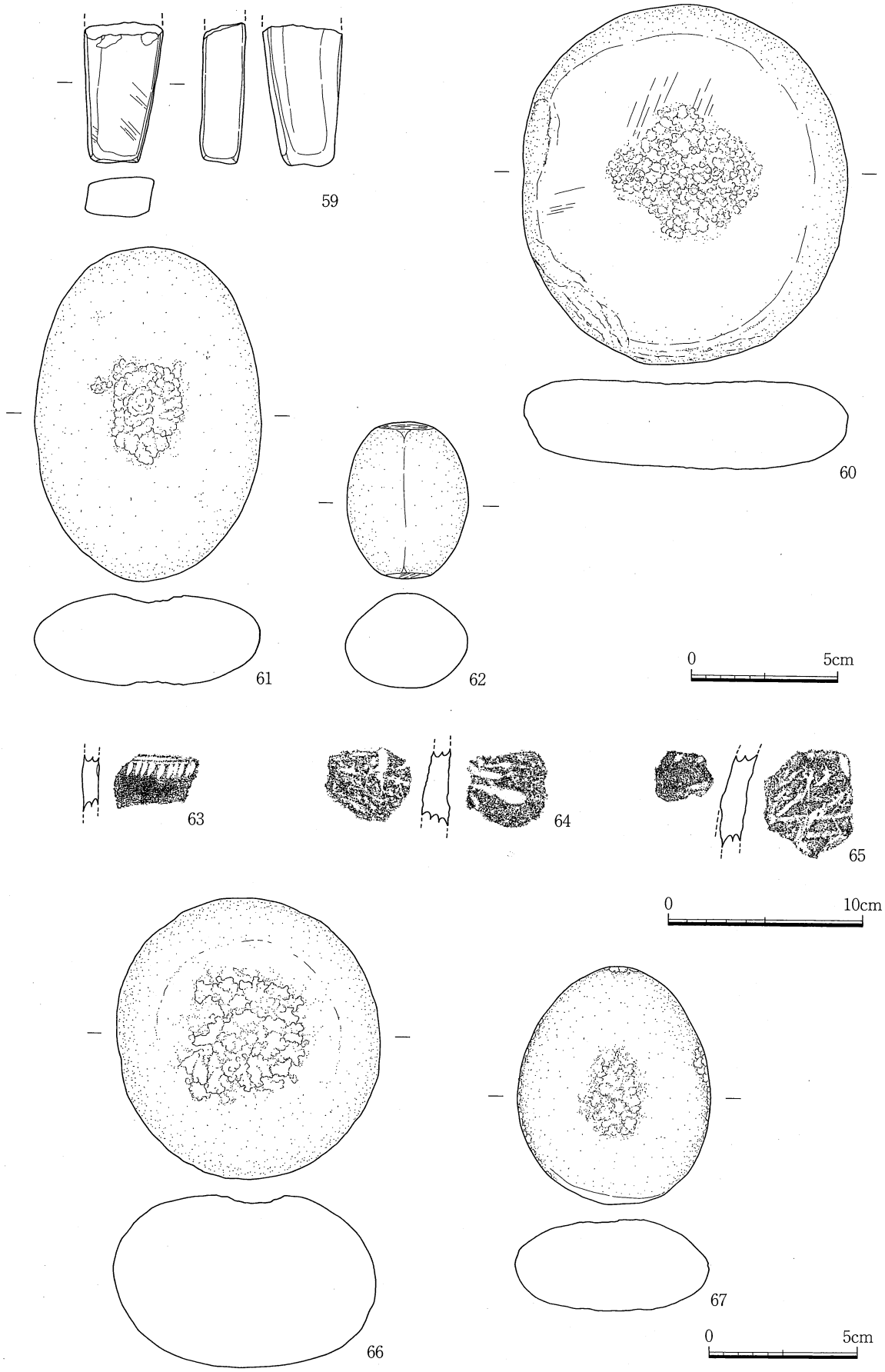
第12図　Ⅰ区出土遺物（1～10）　Ⅱ区出土遺物（11～18）



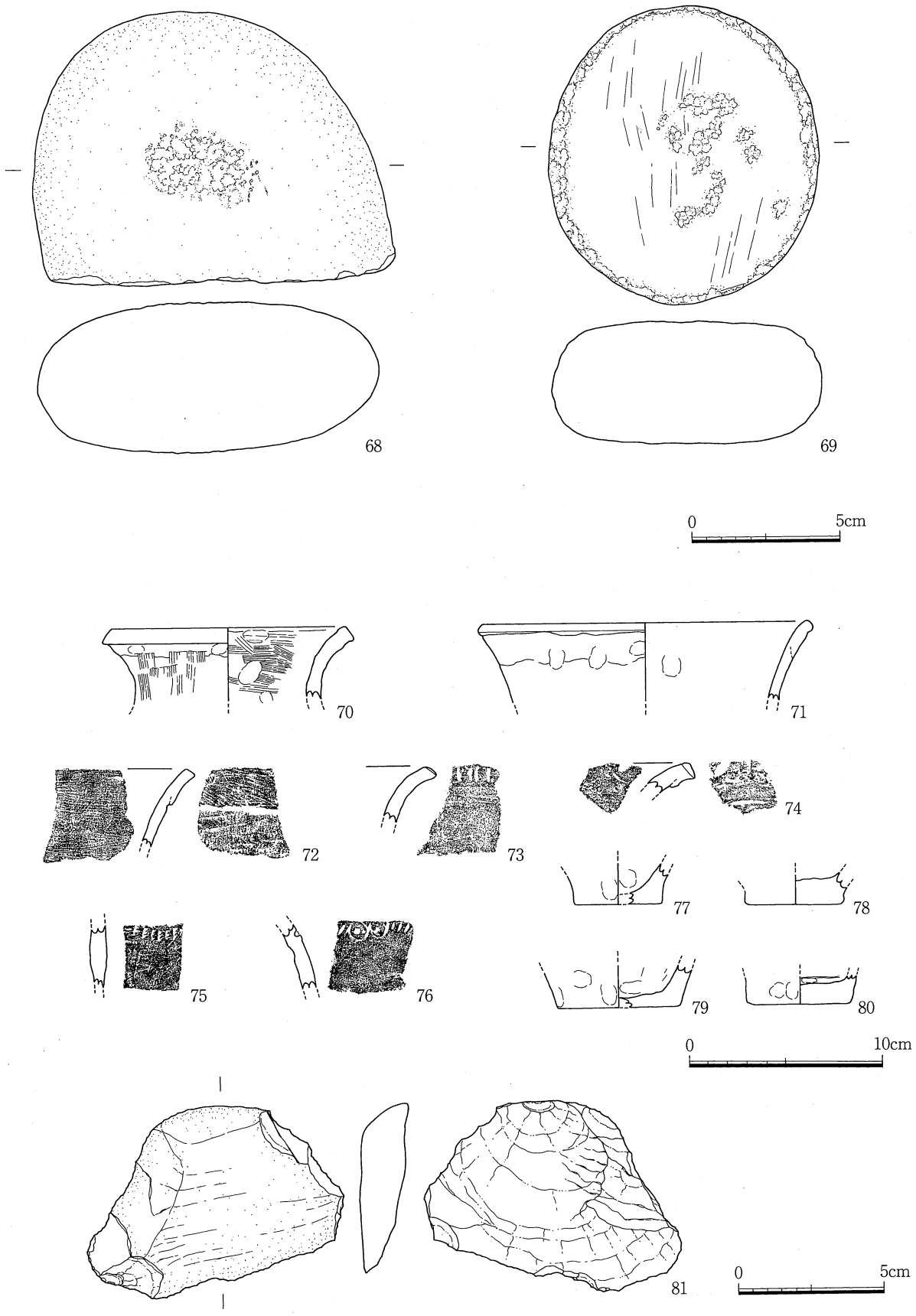
第13図　Ⅲ区出土遺物（19～52）



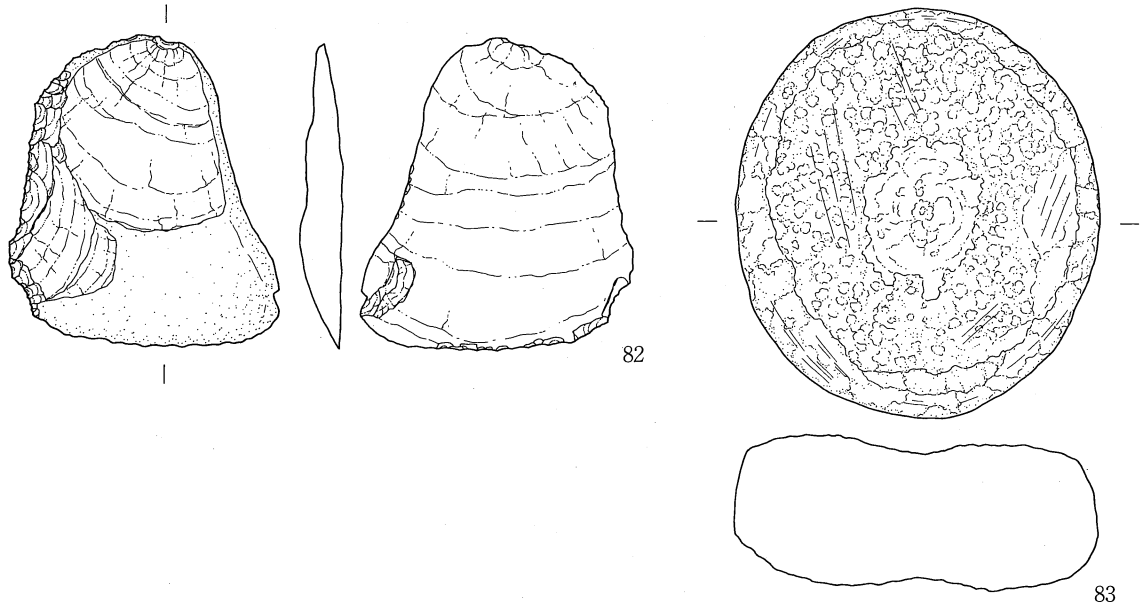
第14図　Ⅲ区出土遺物（53～58）



第15図　Ⅲ区出土遺物（59～62）　Ⅳ区出土遺物（63～67）



第16図　Ⅳ区出土遺物（68・69）　表面採集遺物（70～81）



第17図　表面採集遺物（82・83）

出土土器観察表１

Ⅰ区

図No.	種類	器種	法量（cm）			内面	外面	断面	特徴
			口径	器高	底径				
1	弥生土器	口縁部		(2.9)		10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内外面ナデ調整。口縁部に幅15㎜の粘土帯を貼付。指頭圧痕あり。
2	弥生土器	口縁部		(2.6)		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	内面ナデ調整。口縁部に幅12㎜の粘土帯を貼付。指頭圧痕あり。口唇部、三角状に突をなす。
3	弥生土器	口縁部		(2.8)		7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	口縁部に幅20㎜の粘土帯を貼付。粘土帯の下部に微隆起突帯が巡る。環状の浮文を施す。胎土に0.5～2㎜大の砂粒を含む。
4	弥生土器	口縁部		(1.9)		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR3/1 黒褐色	内面ナデ調整。上部破損。粘土帯を貼付。
5	弥生土器	胴部		(3.0)		10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	外面微隆起突帯が巡る。ナデ調整。煤付着。胎土に砂粒を多く含む。
6	弥生土器	底部		(2.0)	4.4	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	内面指頭圧痕あり。底部外面は中央が若干窪む。

Ⅱ区

11	弥生土器	口縁部		(2.6)		7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	口縁部に幅14㎜の粘土帯を貼付。胎土に砂粒を多く含む。
12	弥生土器	胴部		(2.6)		5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	外面２条の刻目突帯を施す。
13	弥生土器	胴部		(3.4)		7.5YR4/4 褐色	7.5YR4/4 褐色	7.5YR4/4 褐色	外面に刻目を施す。
14	弥生土器	胴部		(4.8)		5YR4/6 赤褐色	5YR4/6 赤褐色	5YR4/6 赤褐色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。外面刻目突帯の下部に刻目を施す。
15	弥生土器	底部		(2.4)	5.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。外面底端部がやや突出する。底部は平滑に仕上げる。
16	弥生土器	底部		(4.0)	5.4	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	内面左方向へヘラ削り。指頭圧痕あり。外面刷毛調整。底部焼成後突孔。

Ⅲ区

19	弥生土器	口縁部	17.2	(15.4)		5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	№45と同一固体。頚部は外傾し、口縁部に幅15㎜の粘土帯を貼付。指頭圧痕あり。体部と頚部の境界に断面三角の突帯を巡らす。
20	弥生土器	口縁部	22.7	(3.1)		5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	内面刷毛調整後ナデ調整。口縁部に幅20㎜の粘土帯を貼付。口唇部指ナデで面を施し、外側に突状をなす。焼成後に穿たれた穿孔を有する。煤付着。
21	弥生土器	口縁部	18.3	(3.8)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。口縁部に幅25㎜の粘土帯を貼付。口唇部は面をなす。
22	弥生土器	口縁部	17.2	(5.3)		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/1 褐灰色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。口縁部に幅15㎜の粘土帯を貼付。口唇部面をなす。外面つめ状指頭圧痕あり。胎土に砂粒を含む。
23	弥生土器	口縁部	18.0	(5.7)		5YR5/3 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	内面横位に刷毛調整。口縁部に幅12㎜の粘土帯を貼付。外面縦位に刷毛調整。刻目突帯を貼付。内外に面指頭圧痕あり。

出土土器観察表２

Ⅲ区

図No.	種類	器種	法量（cm）			内面	外面	断面	特徴
			口径	器高	底径				
24	弥生土器	口縁部		(4.1)		7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	内面横位に刷毛調整。口縁部に幅14㎜の粘土帯を貼付。口唇部接合痕が残る。外面粘土帯貼付部に横位に刷毛調整、頚部は縦位に刷毛調整。
25	弥生土器	口縁部		(3.3)		7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/3 褐色	内面横位に刷毛調整。口縁部に幅14㎜の粘土帯を貼付。口唇部接合痕が残る。外面粘土帯貼付部に横位に刷毛調整、頚部は縦位に刷毛調整。
26	弥生土器	口縁部		(3.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	外面ナデ消し。口縁部20㎜の粘土帯を貼付。指頭圧痕あり。煤付着。
27	弥生土器	口縁部		(2.4)		7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	内外面ナデ調整。口縁部幅20㎜粘土帯を貼付。
28	弥生土器	口縁部		(2.2)		5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	内面指頭圧痕あり。口縁部幅15㎜の粘土帯を貼付する。粘土帯に指頭圧痕あり。口唇部ヘラ調整。
29	弥生土器	口縁部		(1.9)		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	内面ナデ調整。口縁部幅13mmの粘土帯貼付。粘土帯の上端部にヘラ状工具で刻目を施す。
30	弥生土器	口縁部		(2.5)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	内外面ナデ調整。口唇部は面をなし、外側に突をなす。
31	弥生土器	口縁部		(2.9)		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	内外面ナデ調整。口縁部如意状に外反する。外面に煤付着。胎土に砂粒を含む。
32	弥生土器	胴部		(4.5)		7.5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。外面４条一単位の櫛描直線文と波状文を施す。
33	弥生土器	胴部		(1.7)		7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/4 褐色	7.5YR4/4 褐色	外面４条一単位の櫛描波状文を施す。
34	弥生土器	胴部		(2.6)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/6 橙色	外面櫛描波状文を施す。煤付着。
35	弥生土器	肩部		(5.6)		10YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内面横位のナデ調整。指頭圧痕あり。外面刻目突帯貼付。刻目突帯の下部に沈線を施す。煤付着。
36	弥生土器	胴部		(2.0)		7.5YR3/2 黒褐色	5YR4/6 赤褐色	7.5YR3/2 黒褐色	内面ナデ調整。外面２条の刻目突帯貼付。胎土に砂粒を含む。
37	弥生土器	胴部		(3.5)		7.5YR4/6 褐色	7.5YR3/4 暗褐色	7.5YR4/6 褐色	内面指頭圧痕あり。外面２条の刻目突帯を施す。
38	弥生土器	胴部		(3.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内面ナデ調整。外面刻目突帯貼付。
39	弥生土器	胴部		(2.5)		7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。煤付着。外面刻目突帯貼付。
40	弥生土器	肩部		(2.6)		7.5YR6/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	内面ナデ調整。外面刻目突帯貼付。ヘラ描きの横線と縦線が認められる。
41	弥生土器	胴部		(2.0)		7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	外面に細い竹管文を施す。
42	弥生土器	頚部		(1.8)		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	外面ナデ調整。刺突文。
43	弥生土器	頚部		(3.2)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/1 褐灰色	楕円の浮文を施す。
44	弥生土器	口縁部	28.4	(5.3)		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内面ヘラ調整。口唇部ナデ調整。外面指頭圧痕あり。煤付着。
45	弥生土器	底部		(6.8)	7.1	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	底径71㎜でゆるく開く。内面ヘラ状工具による押さえ、指頭圧痕あり。№19と同一固体。
46	弥生土器	底部		(1.3)	5.8	10YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR4/6 褐色	7.5YR4/6 褐色	内面指頭圧痕あり。底部外面平滑に仕上げる。胎土に砂粒含む。
47	弥生土器	底部		(1.9)	5.9	7.5YR4/6 褐色	2.5YR3/4 暗赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	内面指頭圧痕あり。ナデ調整。底部外面平滑に仕上げる。煤付着。胎土に砂粒・石英含む。
48	弥生土器	底部		(5.6)	6.6	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 明黄褐色	内面指頭圧痕あり。外面ナデ調整。
49	弥生土器	底部		(2.0)	7.2	10YR6/4 にぶい黄橙色	5YR6/6 橙色	2.5YR5/8 明赤褐色	内面指頭圧痕あり。外面ナデ調整。底部外面を平滑に仕上げる。胎土に砂粒含む。
50	弥生土器	底部		(2.0)	4.6	5YR6/6 橙色	5YR5/6 橙色	5YR6/6 橙色	内面指頭圧痕あり。外面刷毛調整。底部外面を平滑に仕上げる。
51	弥生土器	底部		(1.1)	4.2	7.5YR5/6 明褐色	10YR5/6 黄褐色	10YR5/1 灰褐色	外面底部中央が若干窪む。
52	弥生土器	底部		(5.0)	4.6	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内面指頭圧痕あり。外面ナデ調整。

Ⅳ区

63	弥生土器	—		(2.9)		10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。外面ヘラ状工具により横線、列点文を施す。煤付着。
64	縄文土器	—		(4.0)		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	早期後半繊維無紋土器。剥落著しい。
65	縄文土器	—		(4.9)		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	早期後半繊維無紋土器。剥落著しい。

出土土器観察表３
表面採集

図No.	種類	器種	法量（cm）			内面	外面	断面	特徴
			口径	器高	底径				
70	弥生土器	口縁部	11.9	(3.8)		10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	指頭圧痕あり。口唇部三角状に突をなす。
71	弥生土器	口縁部	16.6	(4.1)		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	内外面ナデ調整。指頭圧痕あり。口縁部幅18㎜の粘土帯を貼付。口唇部外側に突をなす。
72	弥生土器	口縁部		(4.3)		7.5YR4/4 褐色	7.5YR4/4 褐色	7.5YR4/3 褐色	内面ナデ調整。指頭圧痕あり。口縁部20㎜の粘土帯を貼付。口唇部は面をなし外側に突をなす。外面ヘラ状工具により横位に調整。煤付着。胎土に石英粒混入。
73	弥生土器	口縁部		(3.3)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	内外面ナデ調整。口唇部に刻目を施す。
74	弥生土器	口縁部		(1.1)		5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	口縁部に幅13㎜の粘土帯を貼付。指頭圧痕あり。
75	弥生土器	胴部		(3.3)		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	内面ナデ調整。外面に刺突文を施す。
76	弥生土器	—		(3.9)		7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	内面ヘラ状工具による押さえ、指頭圧痕あり。外面列点文上に円形浮文が施される。
77	弥生土器	底部		(2.1)	4.6	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	内面指頭圧痕あり。底部外面平滑に仕上げる。
78	弥生土器	底部		(1.6)	5.0	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	内面指頭圧痕あり。底部外面平滑に仕上げる。
79	弥生土器	底部		(2.2)	6.3	5YR6/6 橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	内面ヘラ状工具痕あり。指頭圧痕あり。底部外面平滑に仕上げる。
80	弥生土器	底部		(1.4)	5.3	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	内面指頭圧痕あり。底部外面平滑に仕上げる。

出土石器観察表４
Ⅰ区

図No.	器種	法量				石材	特徴
		cm	cm	cm	g		
		全長	全幅	全厚	重量		
7	石鏃	1.50	1.57	1.50	0.60	珪質頁岩	刃先欠損。粗い調整。
8	石鏃	2.40	1.90	0.32	2.00	珪質頁岩	刃先欠損。粗い調整。
9	石包丁	6.35	4.90	1.20	45.80	珪質頁岩	両端部に抉りを持つ。刃部に横方向の擦痕が観察される。
10	敲石	11.10	10.50	3.80	670	砂岩	表裏面共に中央に敲打が認められる。側縁に敲打痕あり。

Ⅱ区

17	フレーク	9.10	5.10	1.20	50.40	珪質頁岩	裏面にバルブが発達する。縦長のフレークである。
18	剥片	6.90	3.80	0.80	23.70	珪質頁岩	裏面にバルブが発達する横長剥片である。下端部に刃こぼれが認められる。

Ⅲ区

53	石鏃	2.40	1.80	0.75	3.00	姫島産黒曜石	未完成品。周縁に細かな剥離痕が認められる。
54	剥片	3.60	2.10	1.40	5.20	姫島産黒曜石	上部欠損。エッヂ部に刃こぼれ痕が認められる。
55	剥片	7.50	4.80	1.05	36.60	珪質頁岩	裏面にバルブが発達する。下端部に使用痕が認められる。
56	剥片	6.50	9.20	1.20	60.70	珪質頁岩	裏面にバルブが発達する。右下端部に使用痕が認められる。
57	スクレーパー	9.95	5.50	0.90	58.40	砂岩	裏面にバルブが発達する。刃部に剥離痕が認められる。
58	剥片	6.90	8.35	1.50	118.40	珪質頁岩	大型礫で顕著な敲打痕を有する。
59	砥石	4.80	2.70	1.40	31.70	砂岩	粒子の細かい砂岩。表裏面に擦痕が認められる。
60	敲石	12.40	11.20	3.10	760	花崗岩	表裏面に敲打痕あり。
61	敲石	11.60	7.80	3.10	450	砂岩	表裏面中央部、敲打により凹状を呈する。側縁に敲打痕あり。
62	敲石	5.40	4.15	3.30	11	砂岩	上下端部に細かい敲打痕あり。

Ⅳ区

66	敲石	9.70	9.10	5.90	756	砂岩	表面中央部、敲打により凹状を呈する。側縁に敲打痕あり。
67	敲石	8.20	6.60	3.20	24	砂岩	下端以外の側縁全周に敲打痕あり。表面中央部、敲打により凹状を呈する。裏面は全体に敲打痕が認められる。
68	敲石	8.40	12.15	5.20	1,000	砂岩	中央部で折損。上端部、表裏面共に敲打痕あり。
69	敲石	10.40	9.30	4.20	700	花崗岩	側縁全周、表面に敲打痕あり。

表面採集

81	剥片	8.40	6.40	1.65	99.70	珪質頁岩	大型礫で顕著な敲打痕を有する。
82	剥片	8.30	7.00	1.00	83.20	珪質頁岩	大型礫で顕著な敲打痕を有する。
83	敲石	10.85	9.60	3.80	758	花崗岩	側縁全周、表裏面に敲打痕あり。

第Ⅳ章　総括

2005（平成17）年７月19日～９月21日に実施した風力発電所建設に伴う本発掘調査で得られた成果についてまとめる。

ムクリ山遺跡は大月町で初めて発掘調査が行われた記念すべき遺跡である。1973（昭和48）年に約72㎡、1992（平成４）年には約300㎡を対象に学術調査を実施している。このため、2001（平成13）年の風力発電所建設計画の段階から、遺跡の取り扱いについて協議を重ね、３ヵ年に及ぶ試掘確認調査と2005年９月の本発掘調査実施により、ムクリ山遺跡調査の一応の終結と、2006（平成18）年の風力発電所の完成に至った。

堆積土壌は浅く、地表から岩盤まで僅か40～60cmという状態である。層序はⅠ層～Ⅲ層に分かれ、Ⅱ層が遺物包含層である。Ⅲ区の平坦地では鬼界アカホヤ火山灰が混入する。堆積土壌が浅いことに加え、明治以降の開拓や樹木の根による撹乱の影響からか、遺構の検出はできていない。遺物の残存状態も良好とはいえないものの、出土遺物は約1,500点を数える。縄文早期後半の繊維無文土器が数点出土しているものの、それ以外は弥生時代の遺物で占められている。石器は敲石、砥石、粗製石包丁等で、珪質頁岩・姫島産黒曜石を石材とした石鏃を数点検出した。

（１）縄文時代

今回の調査では、Ⅳ区の南斜面側のⅡ層で、直径約４cmと５cmを測る繊維無文土器片を２点検出したが磨耗が著しい。第１次調査前には、轟式土器片が採集されていた。当時出土した姫島産黒曜石の石鏃はこの土器に伴うものとされており、今回も姫島産黒曜石の石鏃は繊維無文土器に伴うものと考えられる。

（２）弥生時代

今回出土した土器の殆どが弥生時代の所産である。細片が多いがその中でも、弥生土器の口縁部、底部の出土比率が高い。

口縁部の特徴は、粘土帯を貼付し肥厚させるものが多く、粘土帯の幅は1.2～2.5cmを測る。粘土帯貼付痕は明瞭な段を有するもの、粘土帯の中央部を指頭により強く押さえた痕が見られるもの、また、下端部を強く押さえ器面と一体化し、一部消えかかるものも見られる。底部は底径５cm弱～７cmで、土器焼成後に穿たれた一孔を持つ甑が１点出土した。これには器表に刷毛目痕が見られる。

やや大形の口縁片からは、外反した口縁部が緩く内傾した後に胴部に向け緩やかに外傾し、胴部との境に突帯あるいは刻目突帯が巡るものも見うけられ、これらは南四国独特の形態を有する「南四国型甕」に属すると考えられる。石器では敲石、砥石、粗製石包丁が出土した。出土状況、形態などから弥生時代の所産と考えられる。

（3）高地性集落

ムクリ山遺跡は、標高260～270mに所在する。北～西には海が広がり眺望も利く。南には平地が広がり、出土遺物の時期からも所謂「高地性集落」に該当する。

1973（昭和48）年の調査では平地住居跡１軒と溝跡１条を検出していた。その後の調査ではこの遺構を再確認するのみで、新たな発見は出来ていない。

出土遺物では現在までの調査と1973（昭和48）年以前に表面採集されたものとを併せて考えると、縄文時代早期～前期と弥生時代中期～後期に大別すると考えられる。しかし、これらの遺物には、防禦的高地性集落の特徴である鉄鏃・大型石鏃等の武器類は含まれておらず、甕や甑、敲石や砥石等のどちらかといえば調理器具に属するものが多く生業的集落を示唆する。

包蔵地からさらに、西へ連なる尾根の山頂は標高約296mを測り、「ホウデン」の小字を持つ。「ホウデン」とは、豊かな田と言う意味である。また、遺跡から南には湧水を利用し稲作が行われていた痕跡がある。第１次調査時の1973（昭和48）年には、まだ水田が作られていた。当時の調査では、水田の状況を見る限り開墾には相当無理があるため、弥生時代における稲作は不可欠であったという見解が示されている。しかし、現在でも少し下れば湧水がみられる。現に雨上がりなどは麓から調査地に到着するまで、何箇所もの湧水による泥濘により作業に支障をきたすこともしばしばあった。

1992・3「ムクリ山遺跡」の結びの一文に、「縄文時代集落と同じ立地条件を有することを偶然とするには若干疑問が残ろう。」と、防禦的高地性集落とするかつての見解を否定的にとらえている。しかしながら、狩猟・採集に重点をおく、生業的な集落を営みつつも、見晴らしが良い立地に住むことで、海上交通の見張り台的な性格を併せ持っていた可能性も考えられる。

【参考文献】

大月町史編纂委員会：1995・3「大月町史」

前田光雄：1994・3「ムクリ山遺跡」大月町教育委員会

岡本佳典：1991・3付編「ムクリ山遺跡」大月町教育委員会

川村慎也：2006・1「古津賀遺跡群 第1次～第6次発掘調査報告」四万十市教育委員会

岡本健児・木村剛朗：1973『芳奈遺跡・芳奈向山遺跡』宿毛市教育委員会

伊藤　強：1999・3『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会

伊藤　強：2001・2『バーガ森北斜面遺跡Ⅱ』伊野町教育委員会

久家隆芳：2000『神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡』㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター

松村信博・山本純代：1999・3「奥谷南遺跡Ⅰ」㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター

拝鷹山貝塚調査団（下條信行他）：2005・3「拝鷹山貝塚」宇和島市教育委員会

丸山国夫他：1998・3「保内町の遺跡」愛媛県西宇和郡保内町教育委員会

宇都宮菜乃他：2003・3「保内町の遺跡2」愛媛県西宇和郡保内町教育委員会

愛媛大学法文学部考古学研究室：1999「岩木赤坂遺跡」宇和島市教育委員会

「四国地方・日本の地質8」編集委員会：1991（共立出版株式会社）

出原恵三：2000・3「弥生土器の様式と編年－四国編－・5 土佐地域」株式会社 木耳社

平　朝彦：1990「日本列島の誕生」岩波書店

写真図版

空撮（ムクリ山遺跡包蔵地）

南西より

図版２

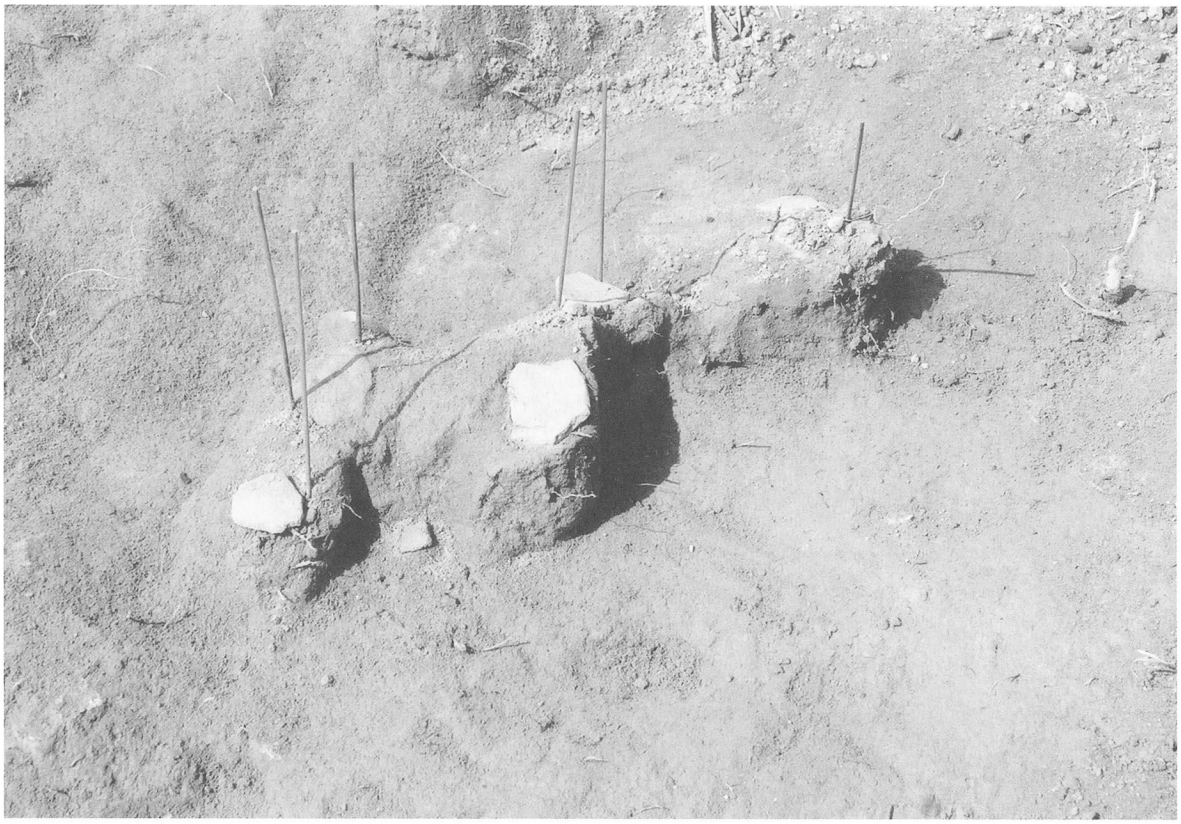
作業風景１

作業風景２

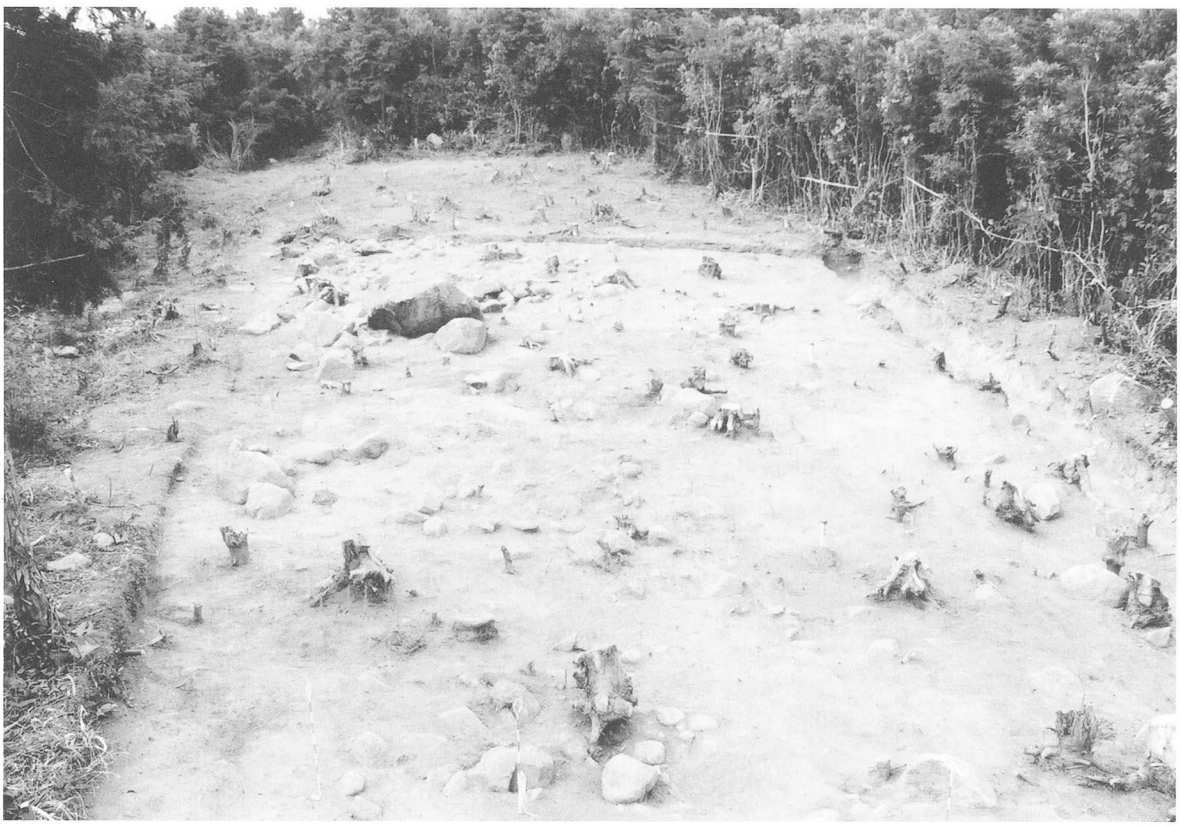
Ⅰ区トレンチ

Ⅰ区北壁セクション

図版 4



遺物出土状況

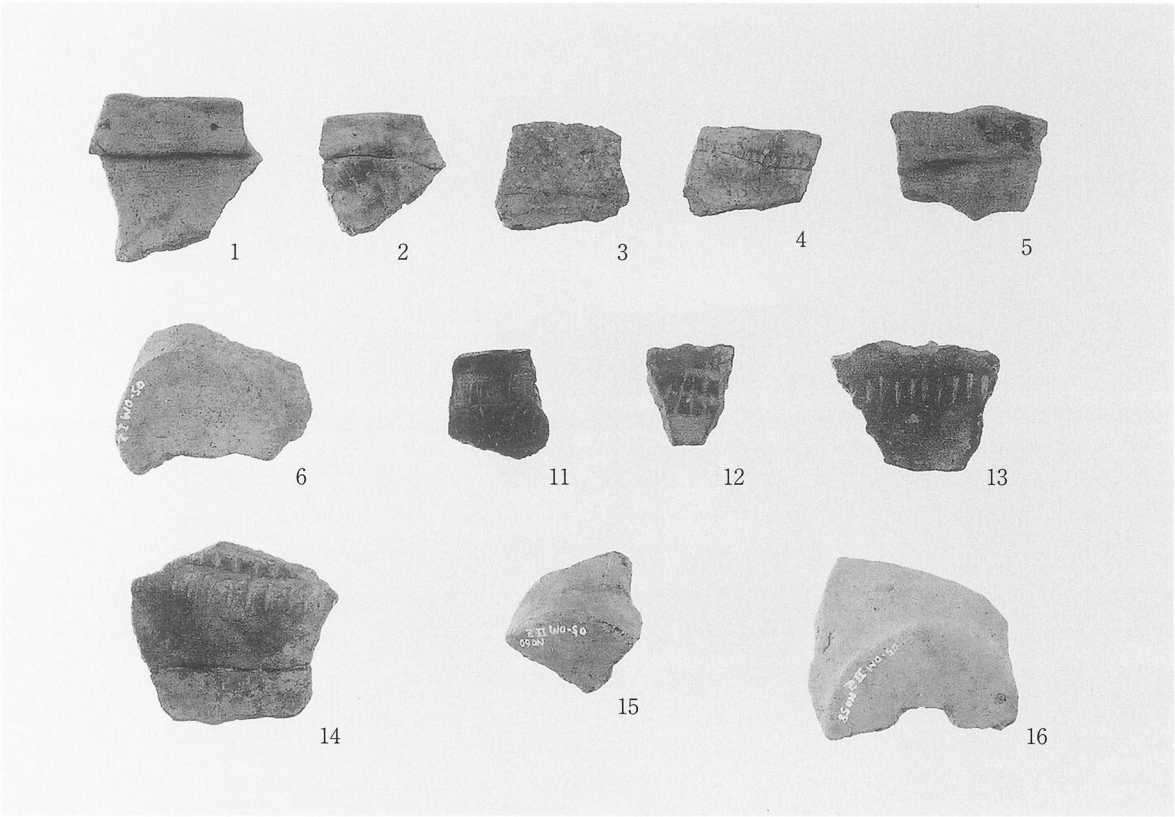


Ⅰ区（Ⅱ層上部）

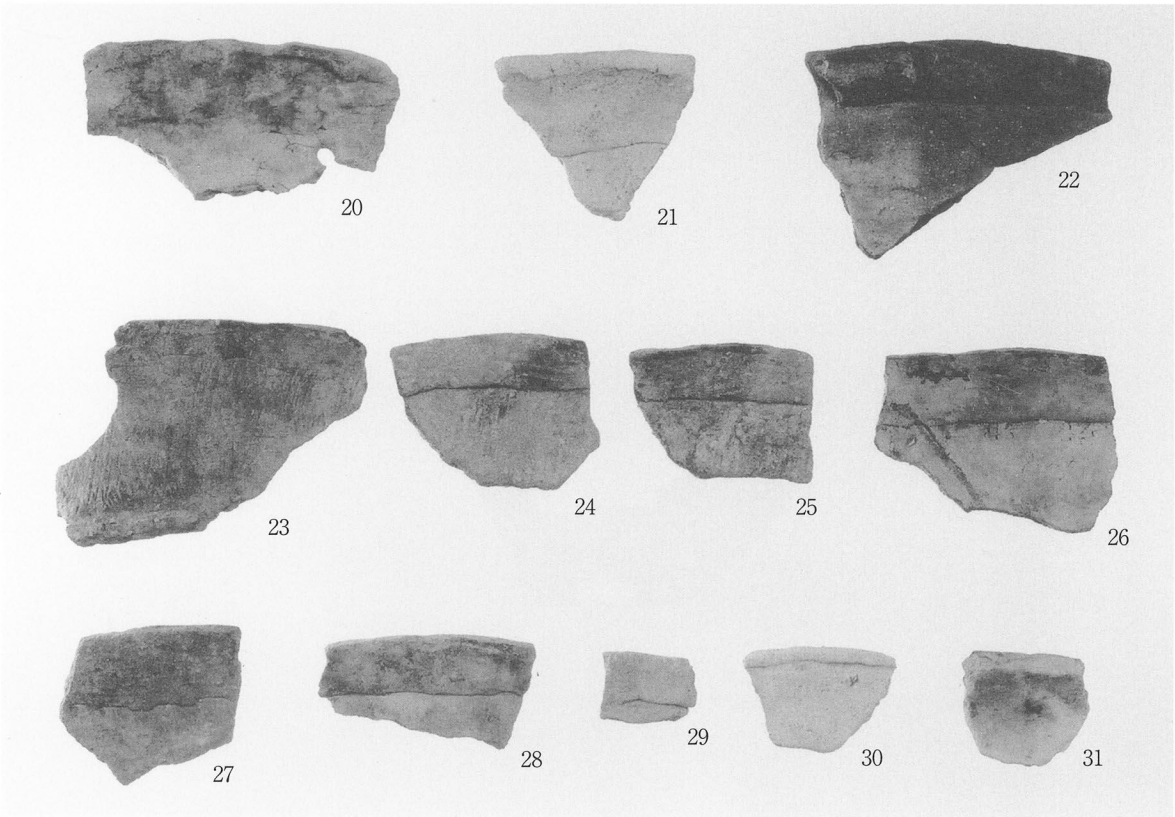
Ⅲ区（19）

Ⅲ区（45）

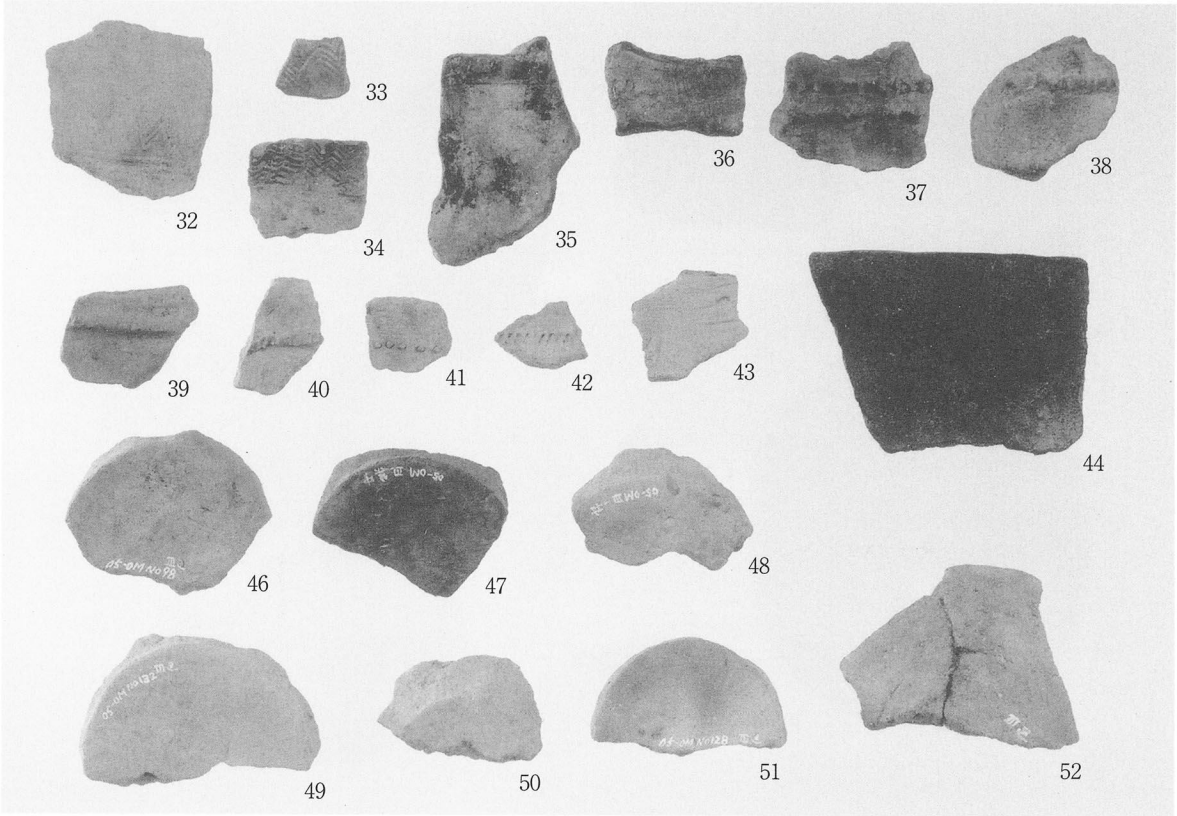
図版6



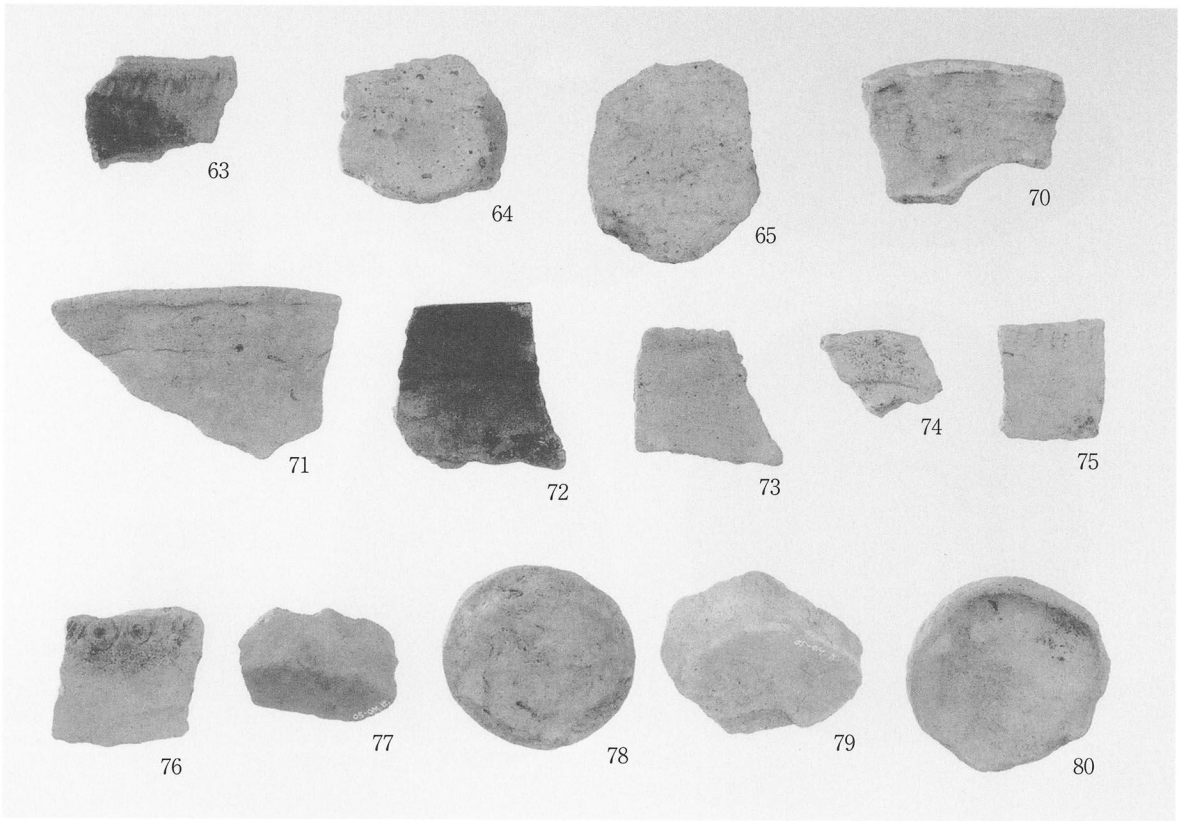
Ⅰ区（1～6）　Ⅱ区（11～16）



Ⅲ区（20～31）

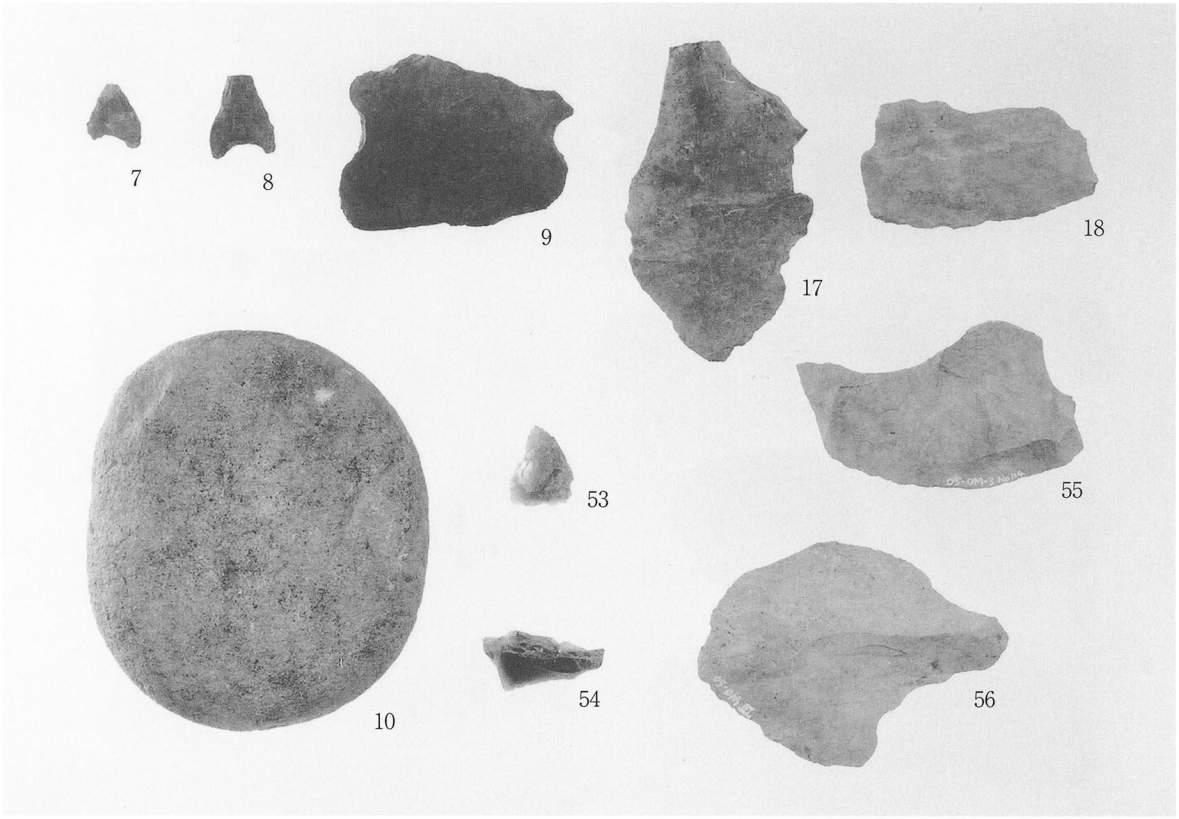


Ⅲ区（32～52）

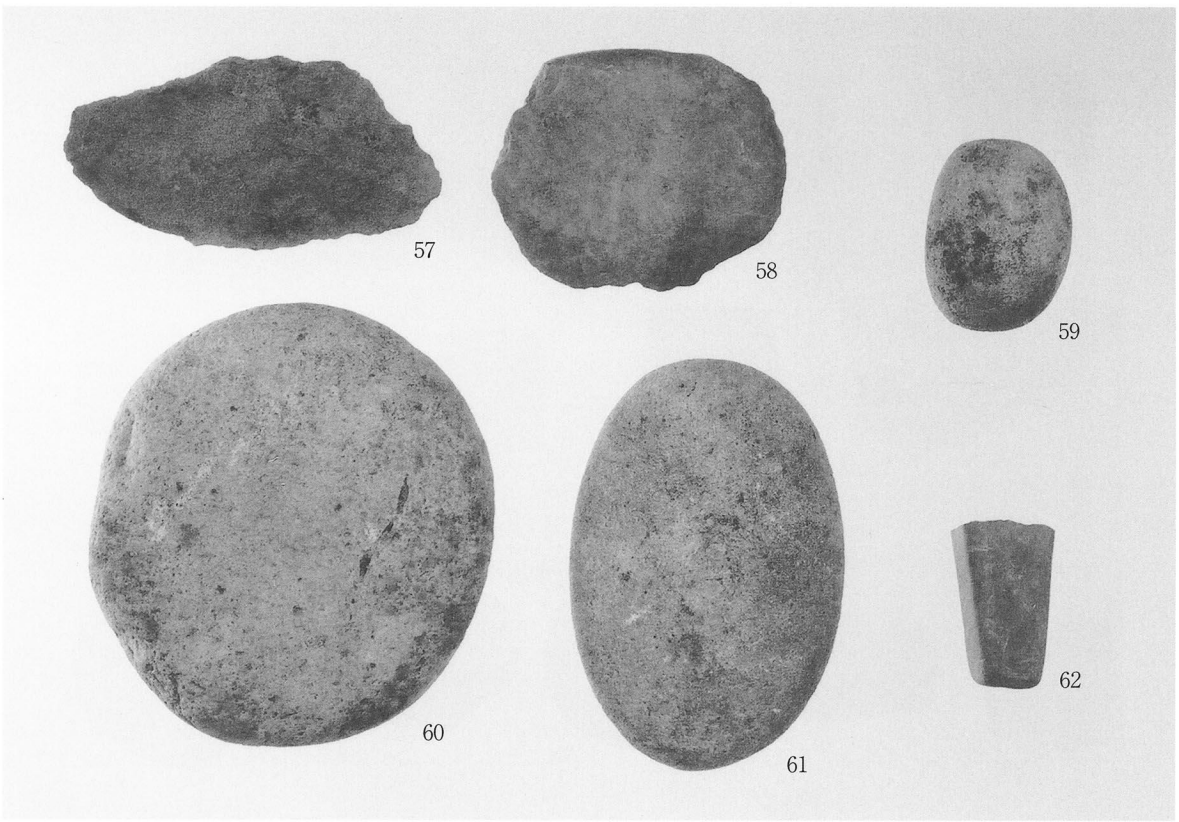


Ⅳ区（63～65） 表面採集遺物（70～80）

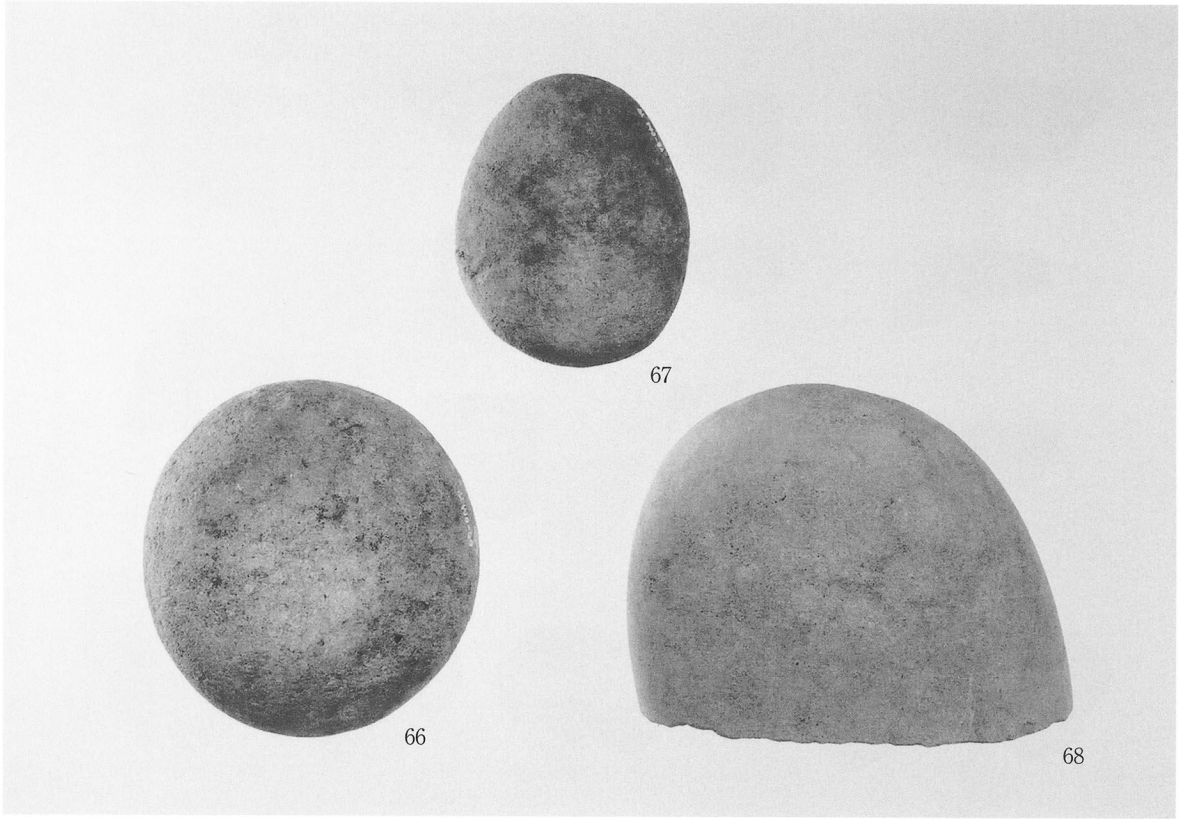
図版８



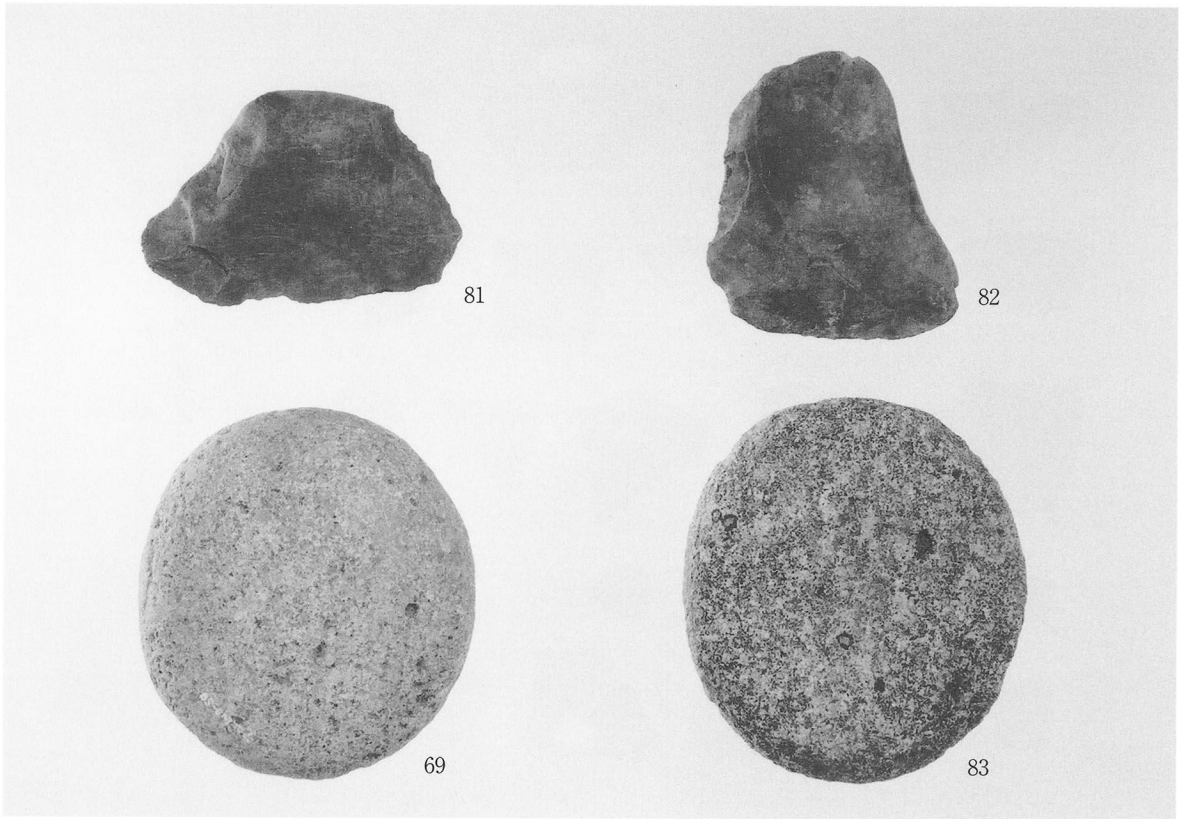
Ⅰ区（7～10）　Ⅱ区（17・18）　Ⅲ区（53～56）



Ⅲ区（57～62）

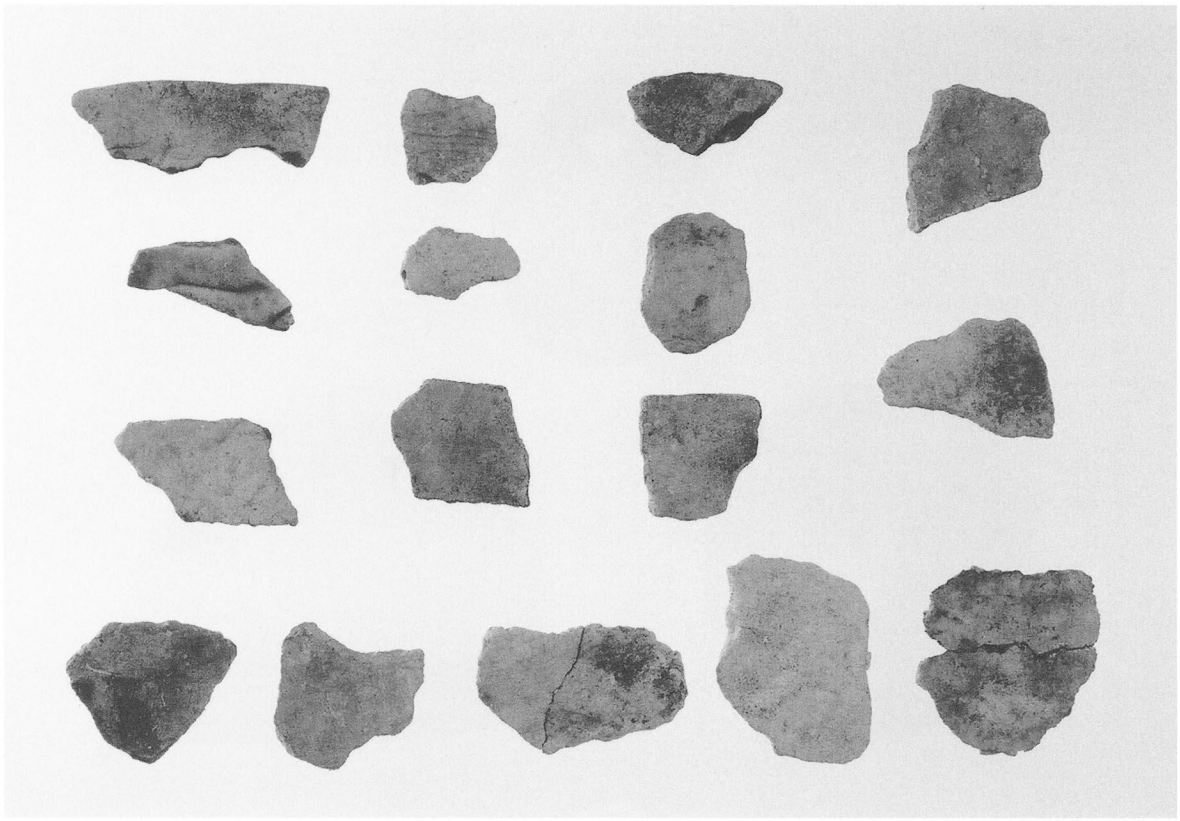


Ⅳ区（66～68）

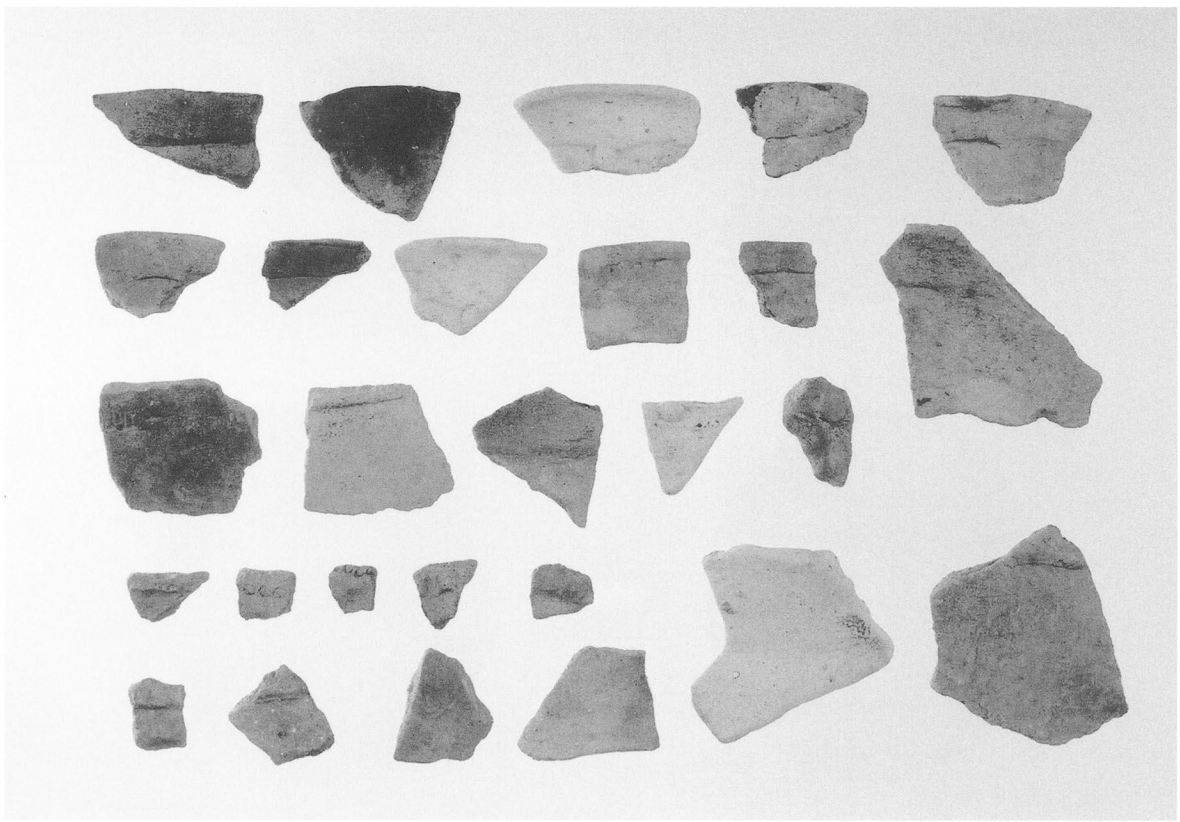


Ⅳ区（69）　表面採集遺物（81～83）

図版 10

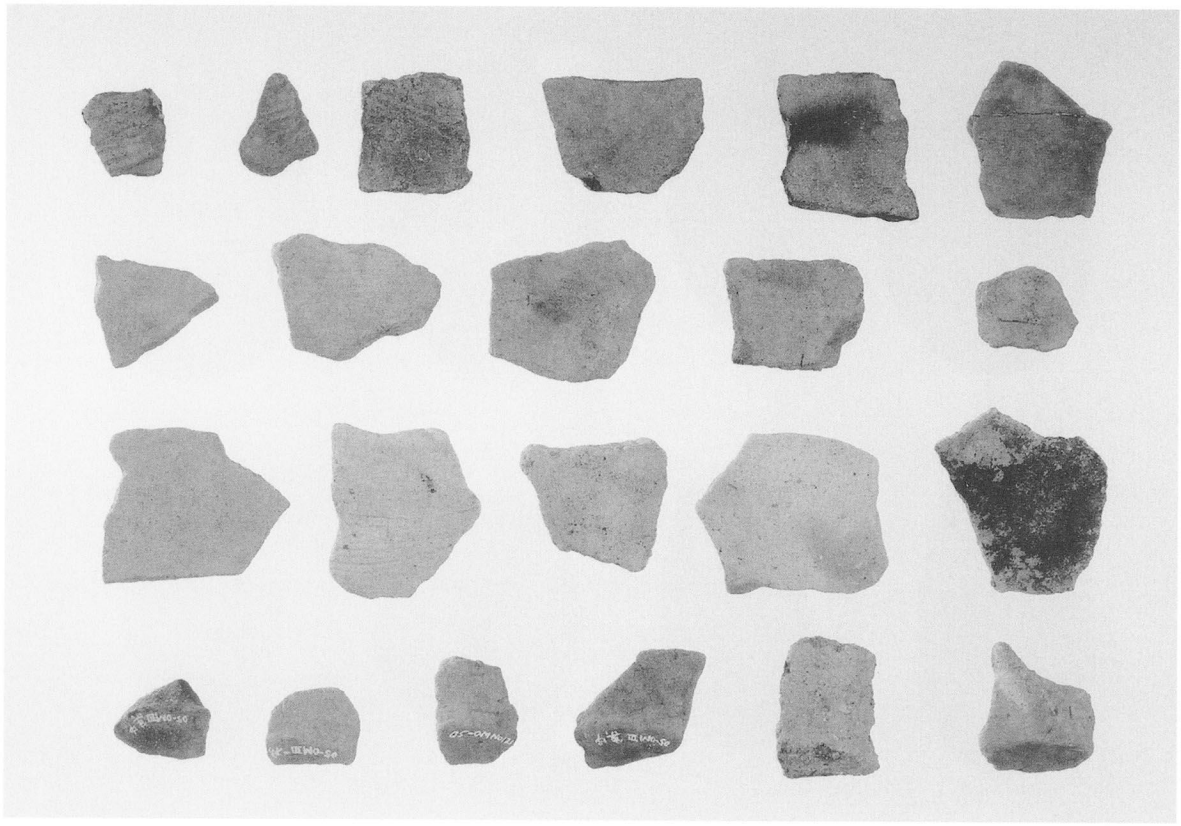


表面採集遺物 1



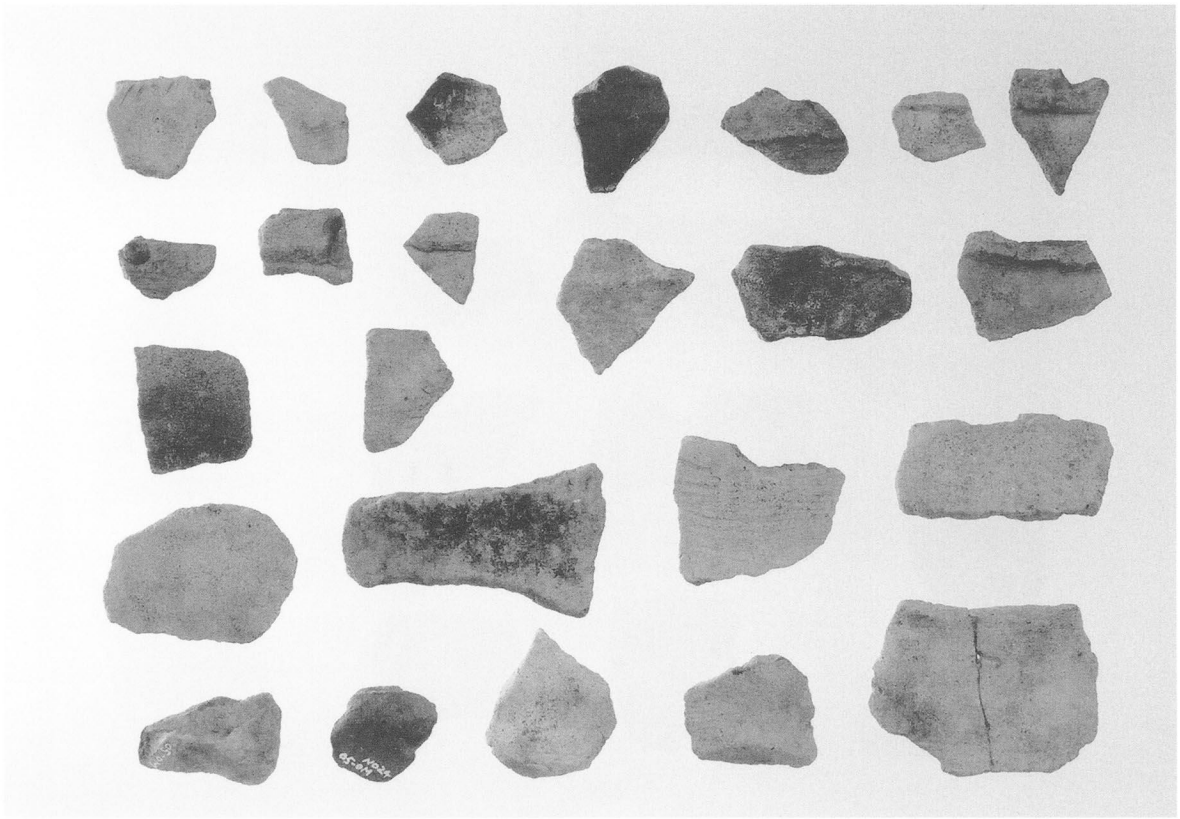
表面採集遺物 2

表面採集遺物３



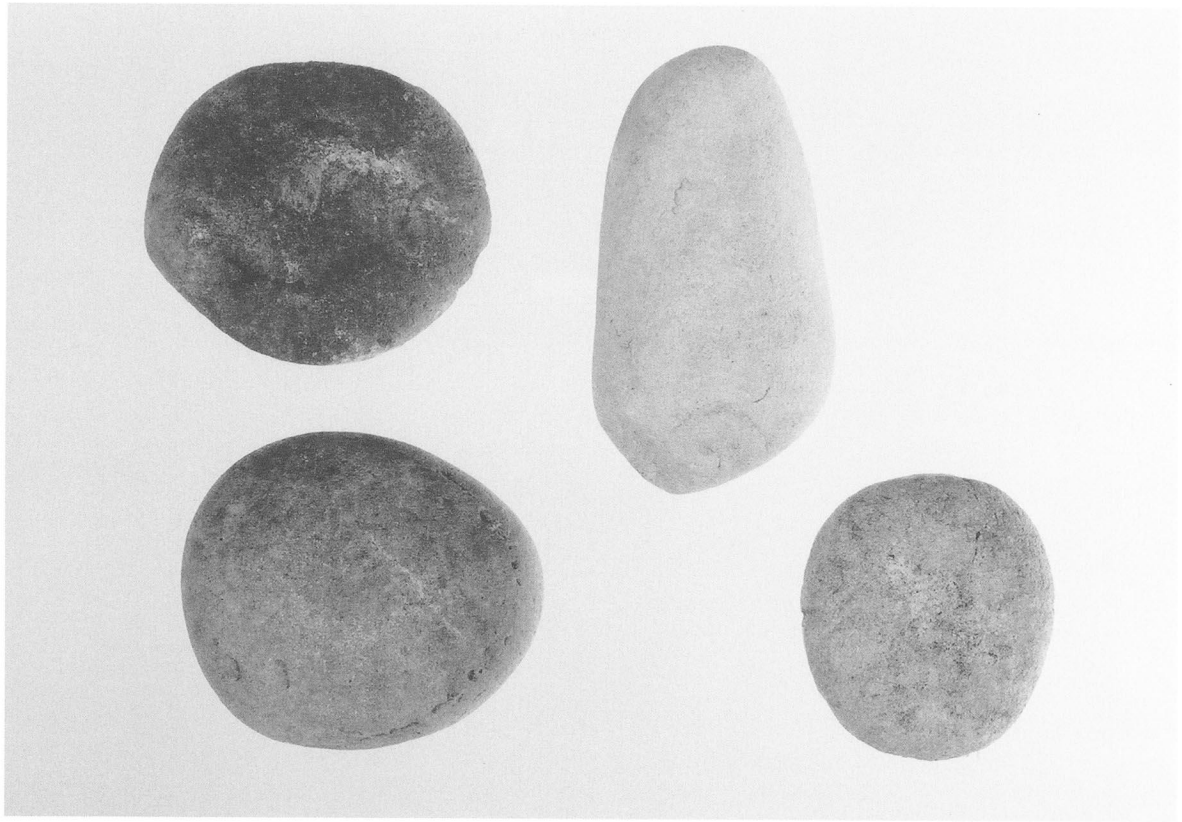
表面採集遺物４

図版 12



表面採集遺物５

表面採集遺物６



表面採集遺物 7

報告書抄録

ふりがな	むくりやまいせきに
書名	ムクリ山遺跡Ⅱ
副書名	風力発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大月町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第6集
編著者名	坂本 由美子
編集機関	大月町教育委員会
所在地	〒788－0302　高知県幡多郡大月町弘見2230番地
発行機関	株式会社　大月ウィンドパワー
所在地	〒100－0014　東京都千代田区永田町2－9－6　十全ビル401
発行年月日	2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
むくりやまいせき ムクリ山遺跡	こうちけんはたぐん 高知県幡多郡 おおつきちょうたつがさこあざ 大月町龍ヶ迫字 むくりやま ムクリ山1913－2 他	39424	500001	32° 51′ 13.8976″	132° 40′ 22.3201″	2005.7.19 ～ 2005.9.21	約4,515㎡	大月ウィンドファーム建設に伴う本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ムクリ山遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代	住居跡	縄文時代早期後半の遺物 弥生時代中～後期初頭の遺物	高地性集落

要約

標高260mに所在するムクリ山遺跡は、県内でも数少ない高地性集落である。1973年に初めて発掘調査が実施され注目を集めた。遺跡からは北に宿毛湾、愛媛県南部沿岸方面を遠望できる。南には平地がひかえる。今回の調査は風力発電所建設工事に伴うもので、2001～2003年の3ヵ年にわたり試掘確認調査を行っており、今回はその結果を踏まえ2005年7月19日～9月21日まで本調査を実施した。出土遺物は弥生時代中～後期初頭に属する土器が中心であるが、縄文時代早期後半に含まれる繊維無紋土器も出土した。石器類では、敲石、砥石、粗製石包丁が各1点、珪質頁岩・姫島産黒曜石を石材とした石鏃が数点出土した。

大月町埋蔵文化財調査報告書

第１集　『尻貝遺跡』1991
第２集　『竜ヶ迫・ムクリ山遺跡』1994
第３集　『大月町文化財地図』2000
第４集　『ナシヶ森遺跡』2001
第５集　『ムクリ山遺跡』2005
第６集　『ムクリ山遺跡Ⅱ』2007

大月町埋蔵文化財調査報告書　第６集

ムクリ山遺跡Ⅱ

編　集　高知県幡多郡大月町教育委員会
高知県幡多郡大月町弘見2230番地
電　話　088-73-1111（代表）
発　行　株式会社　大月ウィンドパワー
東京都千代田区永田町２-９-６　全十ビル401
発行日　2007年３月
印　刷　西村謄写堂